

令和3年度 縄文時代講座 1

ほうしょうじり

法正尻遺跡の特質

本間 宏

(福島県文化財センター白河館 副館長兼学芸課長)



縄文時代年表

	何年前か？	年数	土器の特徴または型式	福島県の代表的遺跡	
草創期	16500 11500	5000年間	無文	高山（白河市） 仙台内前（福島市） 南諏訪原（福島市）	旧石器時代から縄文時代への移行期
			隆起線文		
			豆粒文		
			爪型文		
			円孔文		
			多縄文		
早期	11500 7000	4500年間	薄手無文・撚糸文	松ヶ平A（飯舘村） 一里段A（白河市） 竹之内（いわき市） 大平（大熊町） 前原（天栄村） 西ノ向D（福島市） 下ノ平D（福島市） 常世原田（喜多方市） 田子平A（浪江町） 泉川（白河市） 薬師堂（石川町） 中ノ沢A（郡山市） 大槻八頭（郡山市） 西田H（小野町） 日向前（棚倉町）	温暖化適応 定住の確立
			平坂式・竹之内式		
			大平・三戸式		
			田戸下層式		
			明神裏Ⅲ式		
			常世1式		
			野島・槻木式		
			鵜ガ島台式		
			茅山下層・素山Ⅱa式		
			常世2式・北前式・梨木畑式		
			日向前B式・大畑G式		

縄文時代年表

	何年前か？	年数	土器の特徴または型式	福島県の代表的遺跡	
前期	7000 5470	2530年間	上川名式	上田郷Ⅵ（広野町） 獅子内（福島市） 宮田貝塚（南相馬市） 笹山原A（会津若松市） 宇輪台（福島市） 下ノ平D（福島市） 鷲沢（会津美里町） 十五壇（会津美里町） 下谷ヶ地平A（会津美里町） 鹿島（会津美里町） 冑宮西（会津美里町）	集落の大型化 貯蔵穴の普遍化 漆工技術の進歩 沼沢火山の噴火
			宮田Ⅲ群		
			大木1式		
			大木2a式		
			大木2b式		
			大木3式		
			大木4式		
			大木5式		
中期	5470 4420	1050年間	大木6式	大平・後関（福島市） 月崎A（福島市） 法正尻 （磐梯・猪苗代町） 妙音寺（郡山市） 本能原（会津若松市） 石生前（柳津町） 天光 （磐梯町） 前田（川俣町） 塚越（須賀川市） 宮畑（福島市） 塩沢上原A（二本松市） 和台（福島市）	環状集落の出現 貯蔵穴群エリアの出現 地方間交流の活発化 複式炉の出現 人口増大 遺跡間格差の出現
			大木7a式		
			大木7b式		
			大木8a式		
			大木8b式		
			大木9a式		
			大木9b式		
			大木9c式		
			大木10a式		
			大木10b式		

縄文時代年表

	何年前か？	年数	土器の特徴または型式	福島県の代表的遺跡	
後期	4420 3220	1200年間	越田和 2 群	越田和（三春町）	土器棺墓域の出現 冷涼化 集落の拡散 敷石・配石遺構の盛行 工芸技術の進化 呪術的製品の増大
			綱取Ⅰ式	藤権現遺跡（喜多方市）	
			綱取Ⅱ式	高木・北ノ脇（本宮市）	
			大湯式・堀之内2式	馬場中路（郡山市）	
			大湯式・堀之内2式	柴原A（三春町）	
			四ッ石式・宝ヶ峯 1 式	荒小路（郡山市）	
			宝ヶ峯 2 式	三夜様（須賀川市）	
			宝ヶ峯 3 式	町B（郡山市）	
			新地 1 式	角間（磐梯町）	
			新地 2 式	川原（国見町）	
晩期	3220 2350	870年間	新地 3 式	上岡（福島市）	掘立柱建物の盛行 工芸技術の飛躍的進歩 低湿性貯蔵穴の出現
			新地 4 式	又兵衛田A（須賀川市）	
			大洞B式	小峯（福島市）	
			大洞BC式	田子平A（浪江町）	
			大洞C1式	稲荷塚B（飯舘村）	
			大洞C2式	羽白C（飯舘村）	
			大洞A式	一斗内（須賀川市）	
			大洞A´ 式	岩下B（飯舘村）	
				宮畑（福島市）	
				南諏訪原（福島市）	



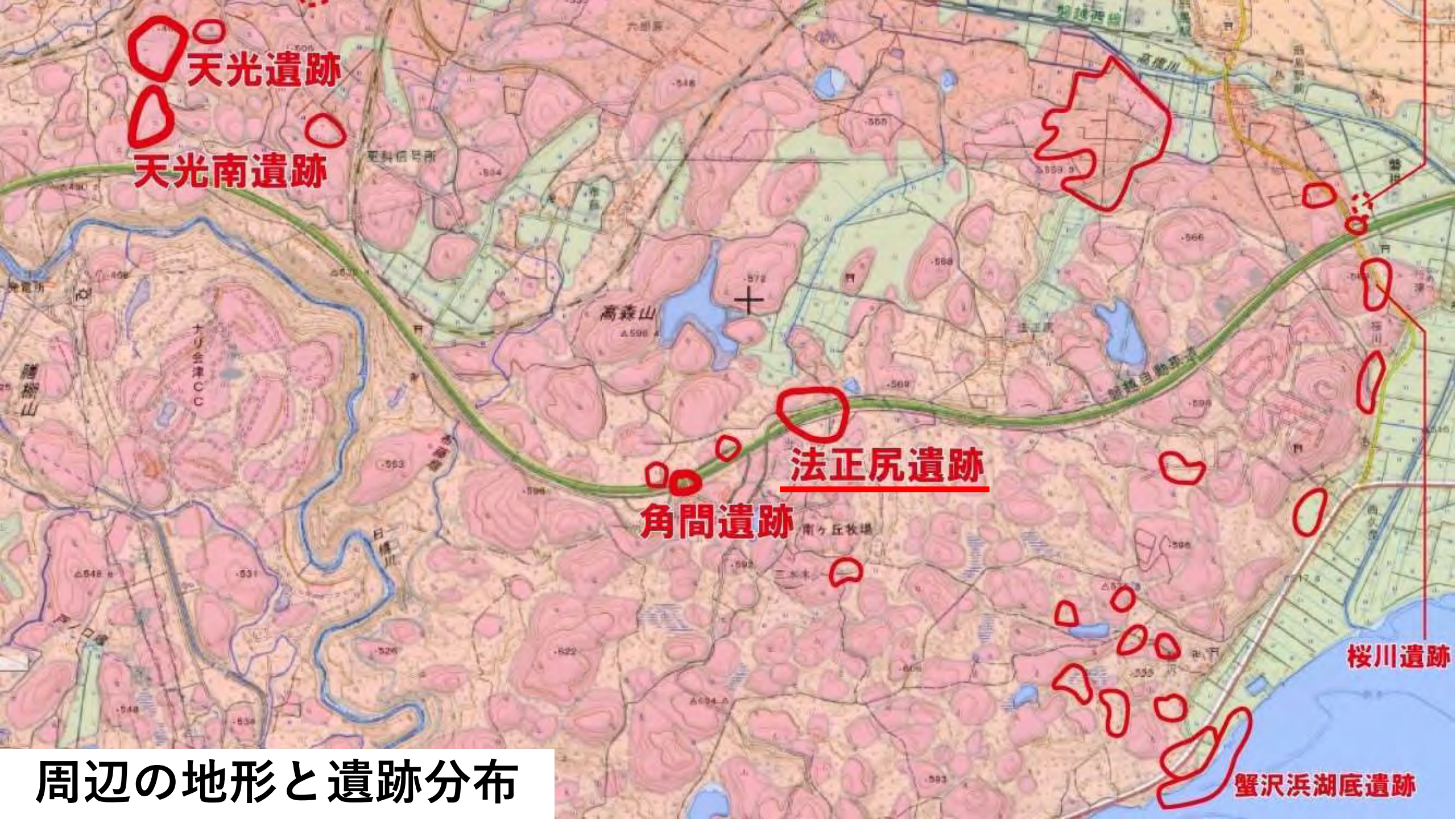
● 法正尻遺跡



磐梯山

法正屍遺跡

舟



天光遺跡

天光南遺跡

法正尻遺跡

角間遺跡

桜川遺跡

蟹沢浜湖底遺跡

周辺の地形と遺跡分布

縄文中期前半の土坑群と中期後半の竪穴住居跡群

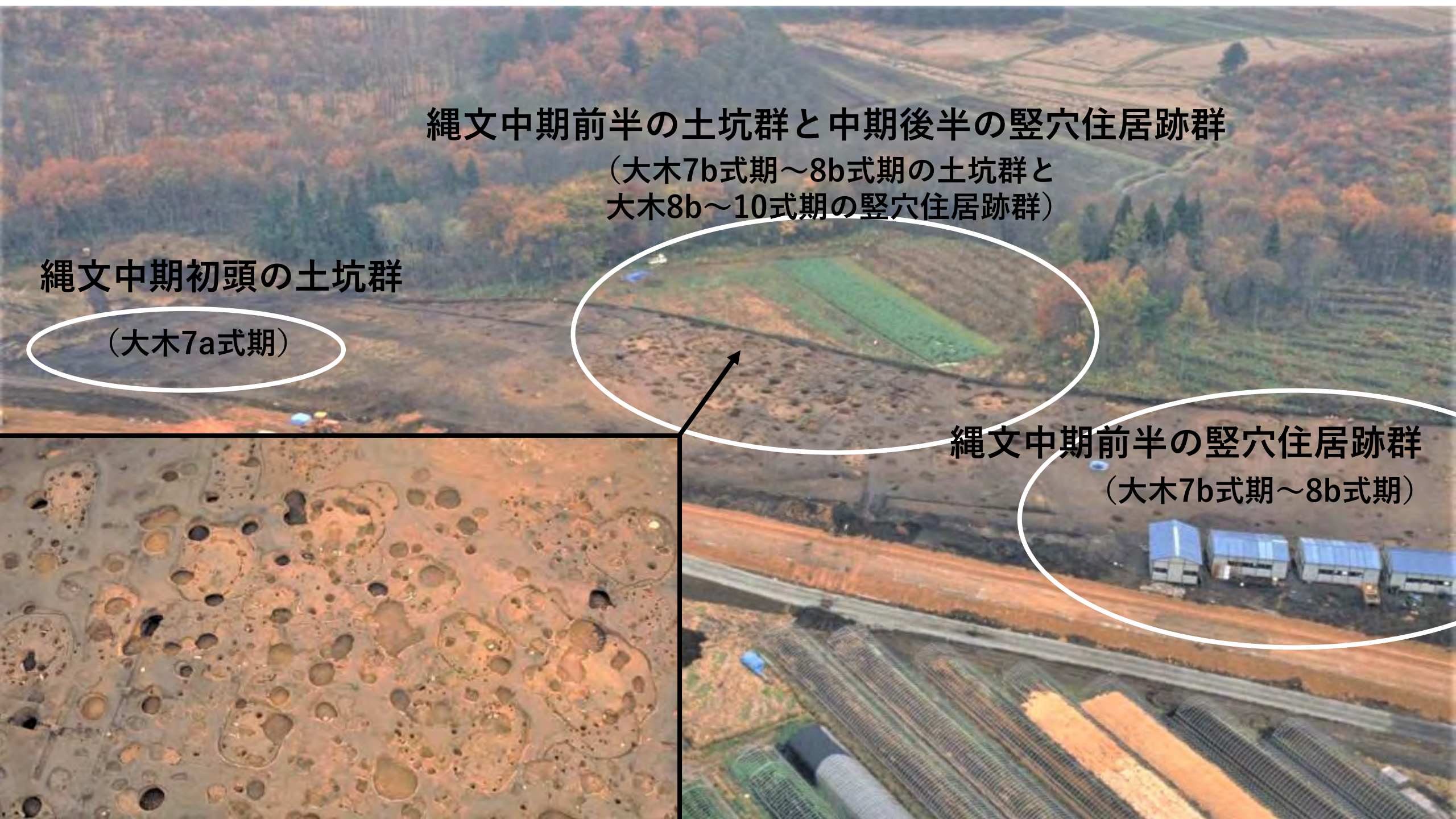
(大木7b式期～8b式期の土坑群と
大木8b～10式期の竪穴住居跡群)

縄文中期初頭の土坑群

(大木7a式期)

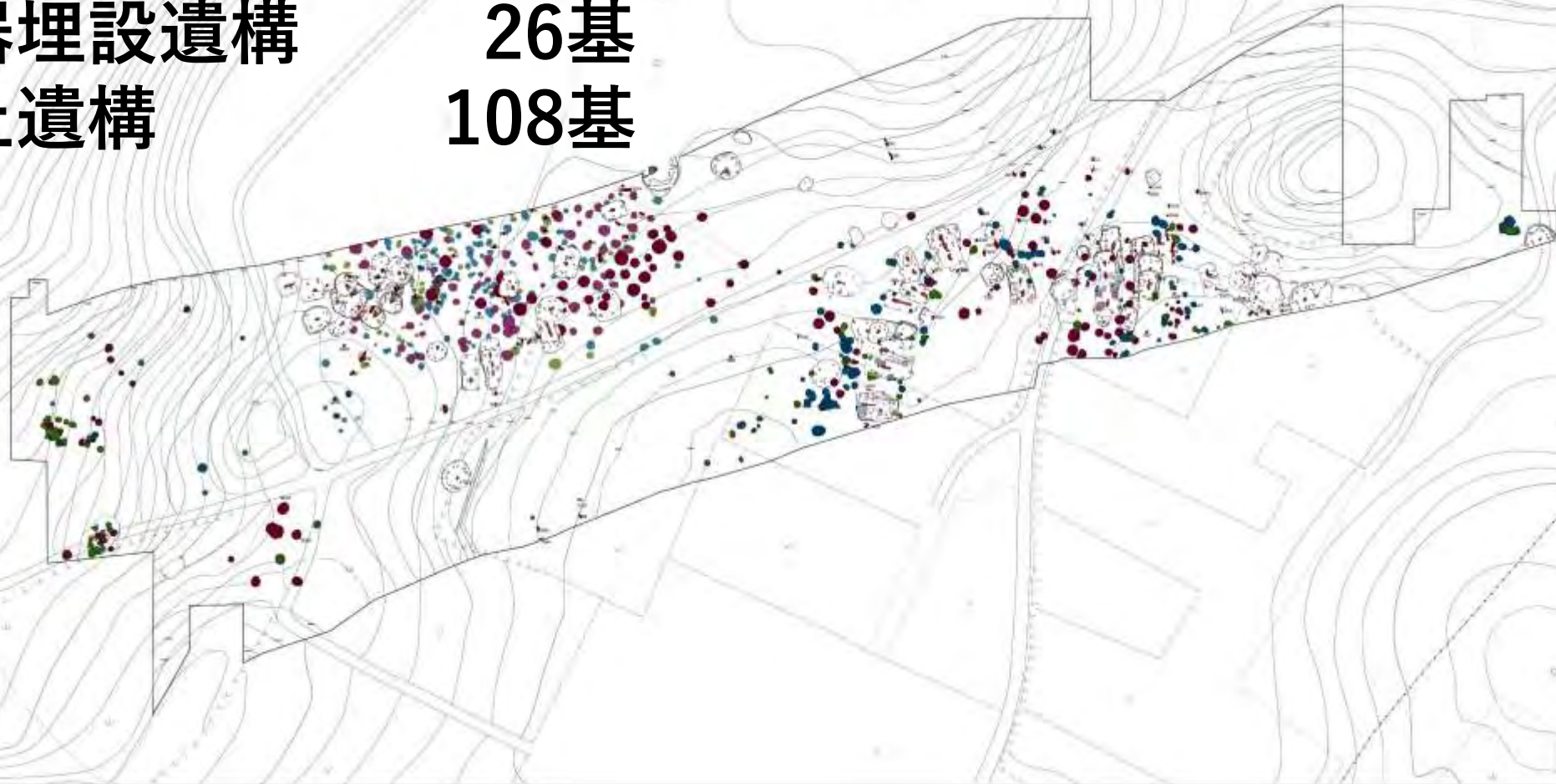
縄文中期前半の竪穴住居跡群

(大木7b式期～8b式期)



法正尻遺跡から発見された遺構

竪穴住居跡	129基	(うち127基が縄文時代中期)
土 坑	759基	
土器埋設遺構	26基	
焼土遺構	108基	



法正尻遺跡から発見された遺物

土 器	260,000点	(破片数)
土製品・石製品	168点	
石 器	3,350点	(うち713点が磨石)

上記出土品のうち855点が国指定重要文化財



法正尻遺跡の特質

- 1 縄文中期土器群の変遷を理解することができる
→（東北地方南部の基準資料として重要）
- 2 一つの遺跡の中で、縄文時代中期の竪穴住居跡と屋内炉の変遷を理解することができる。
- 3 縄文中期集落の居住空間と貯蔵空間のあり方を理解することができる。

土器の変遷を層位的に検証する場合の留意点

地層累重の法則 下の地層は、上の地層よりも古い



下の地層から出土した土器は、上の地層から出土した土器よりも古い・・・とはかぎらない！

地層の成因しだいでは、逆の現象もしばしば起こる

住居跡の切り合い

同一地点で複数の住居跡が重複する場合、他の住居跡によって切られている住居跡に遺棄された土器のほうが古い・・・とはかぎらない↓

住居が機能していた時間幅と土器型式が存続した時間幅は一致しない （一型式を不用意に細分してしまうことがある）

複数の出土品の同時性を示す層位的まとめ

スウェーデンの考古学者オスカル・モンテリウスは、**同時に埋められた**と見なすべき状況で発見されたひとまとめの遺物を「**一括遺物**」と規定し、複数の遺物の同時性を証明する有力な手がかりとなると説いた。

同時に埋められた



同時に置き去られた



同時に捨てられた



同時に埋まった



同時に流された



同時に掘り起こされた



~~製作~~・~~使用~~・**廃棄**の同時性



法正屍遺跡

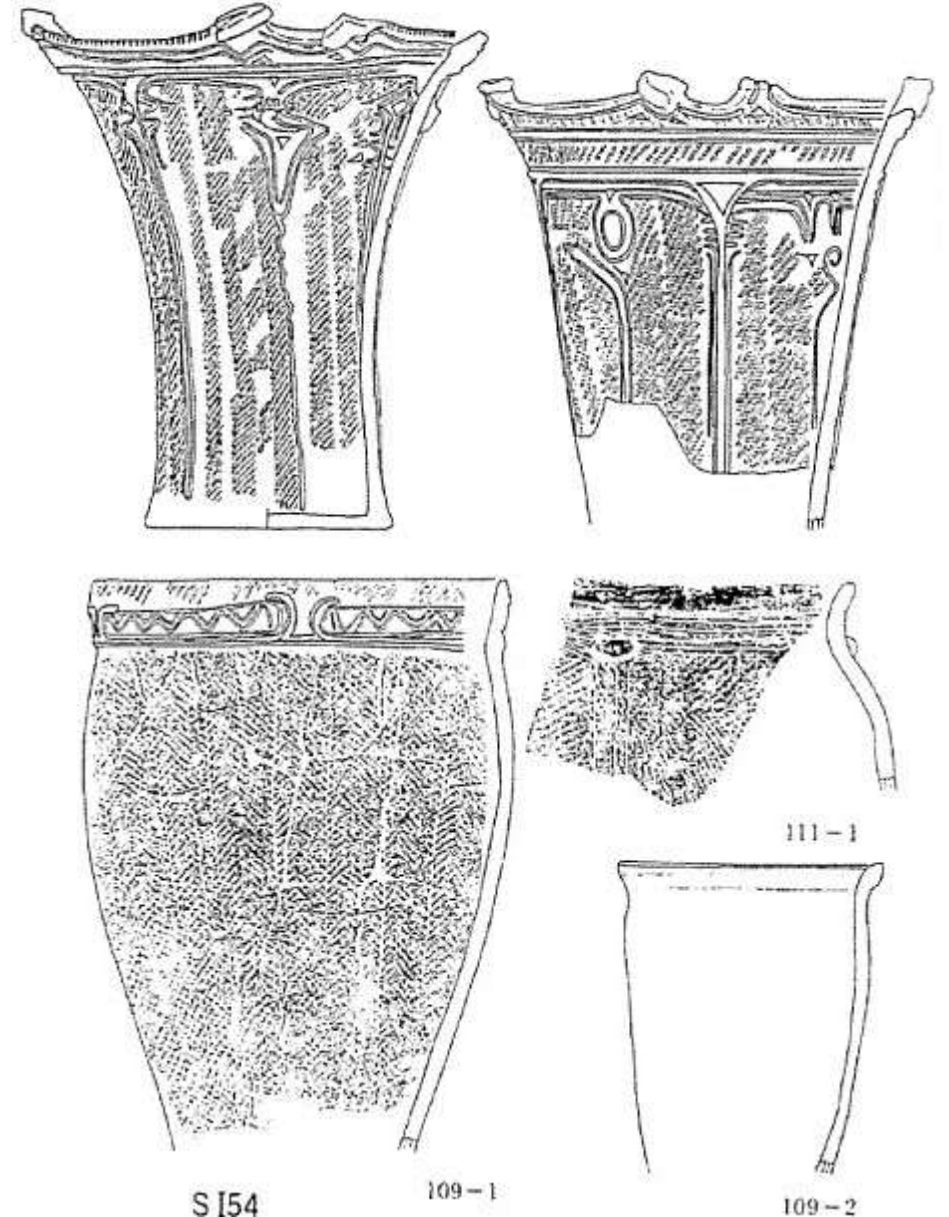


1 縄文中期土器群の変遷がわかる出土状態



54号住居跡における土器群

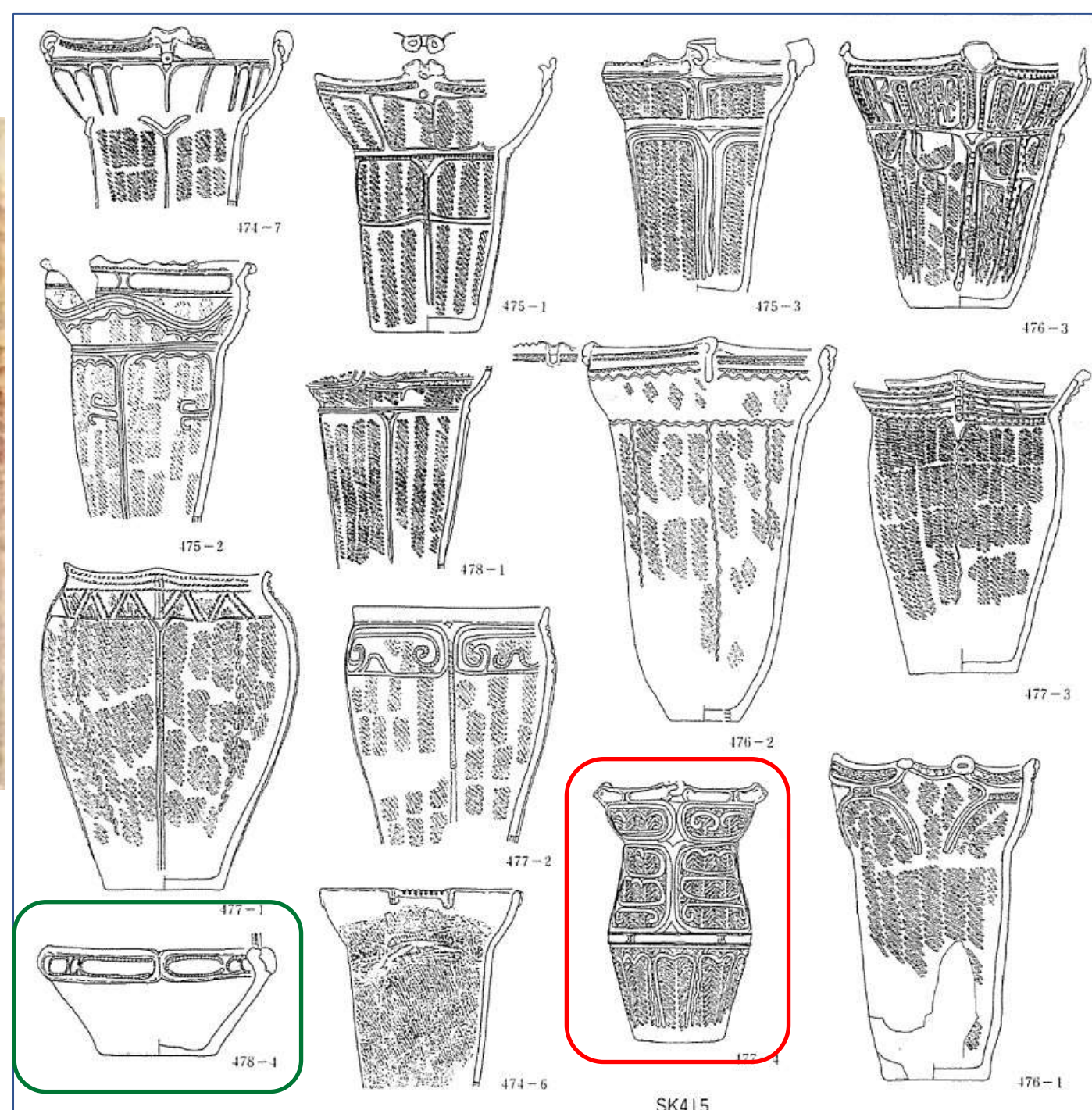
大木7a式期





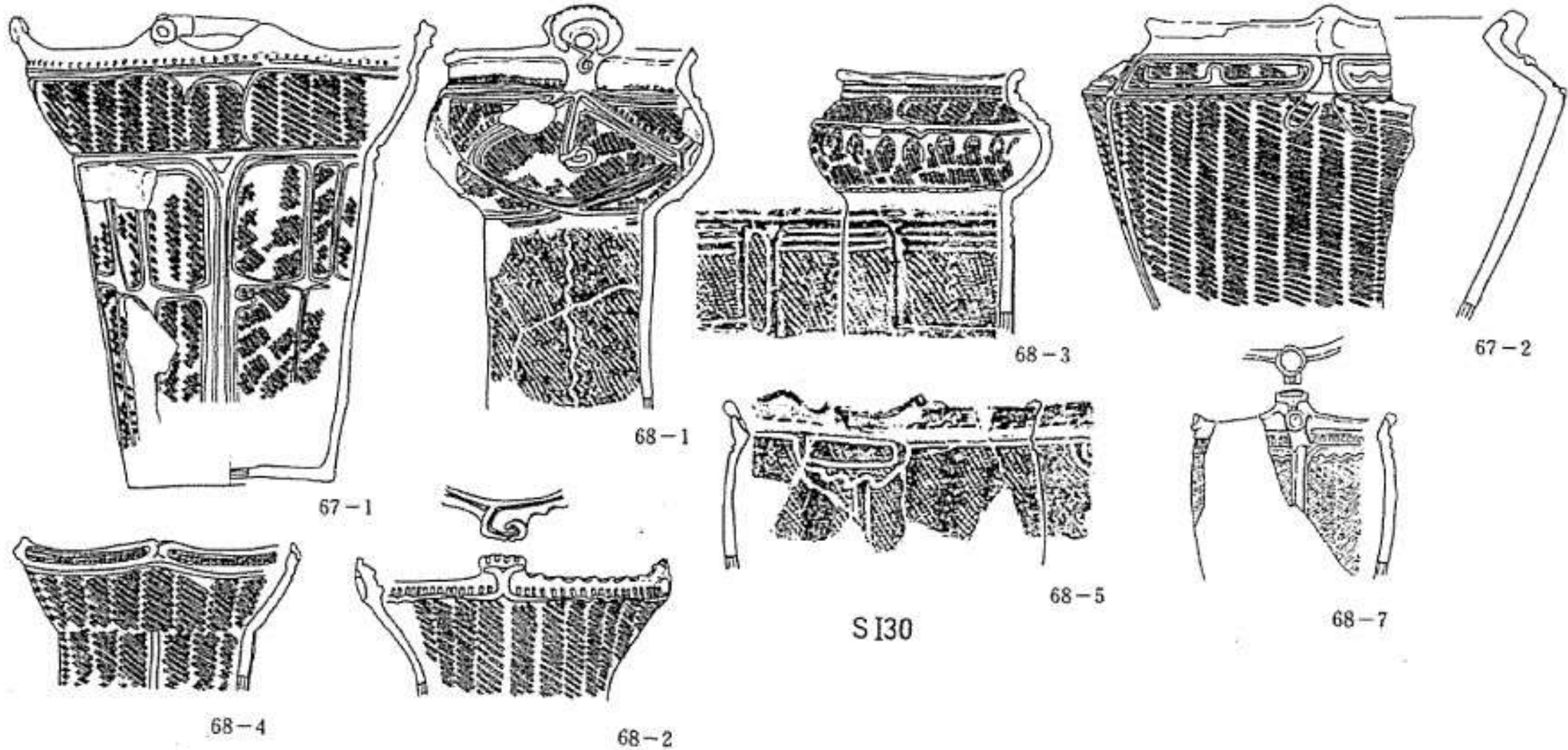
415号土坑における土器群

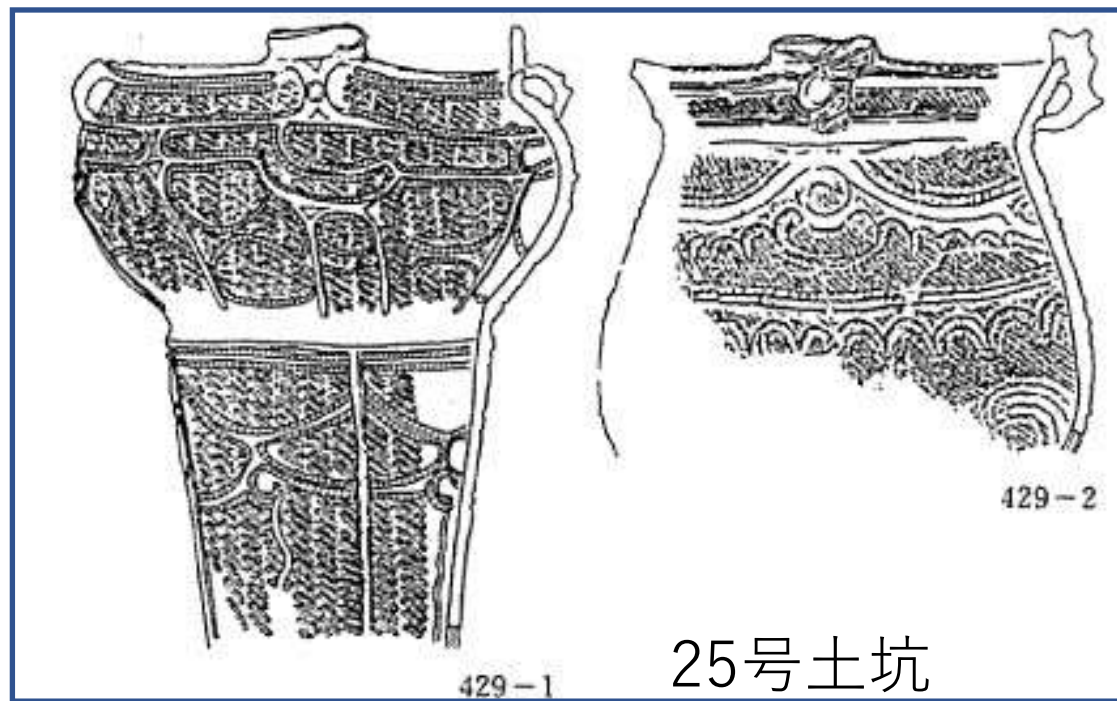
大木7b式期



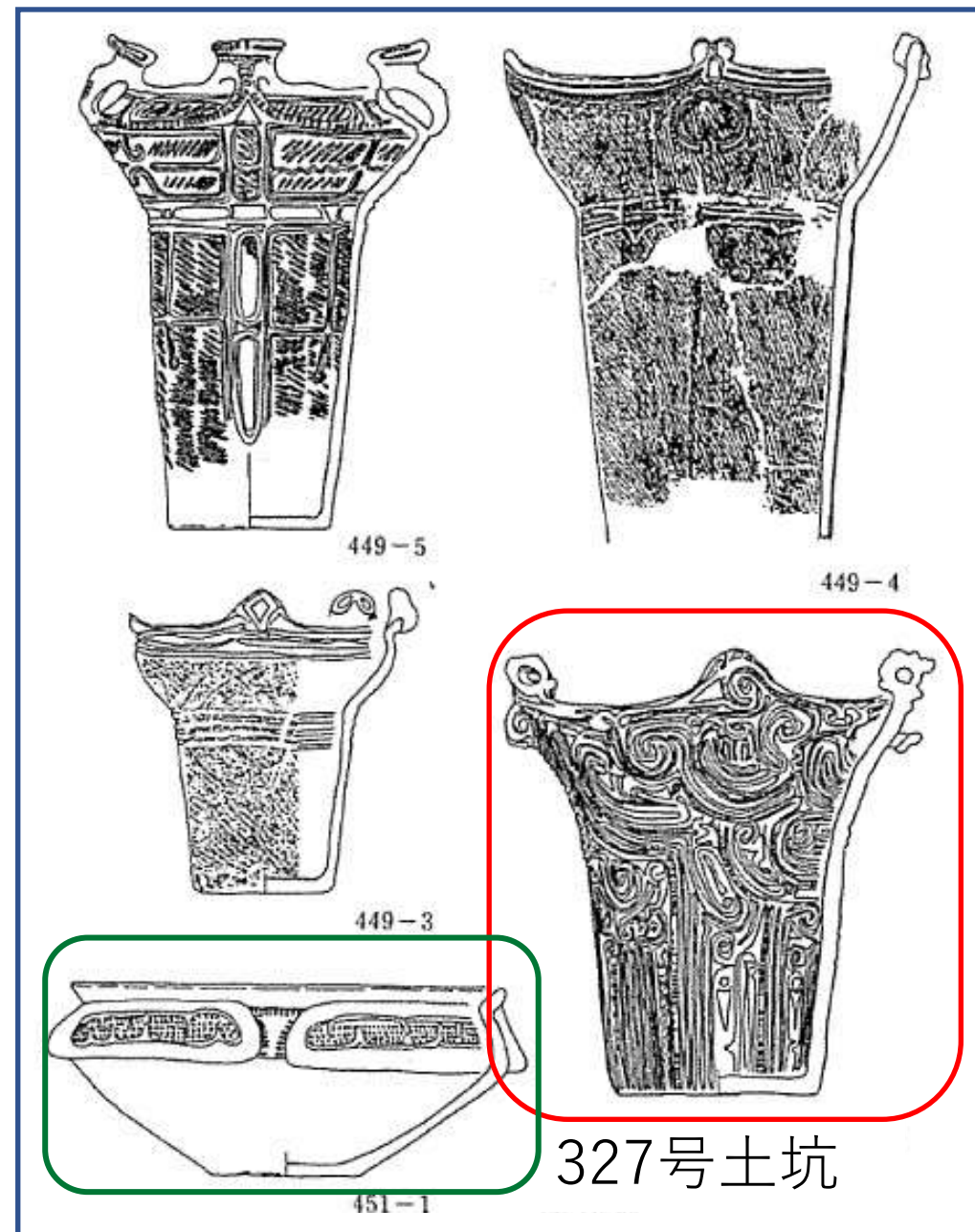
30号住居跡

大木7b式期～8a式期 (1)



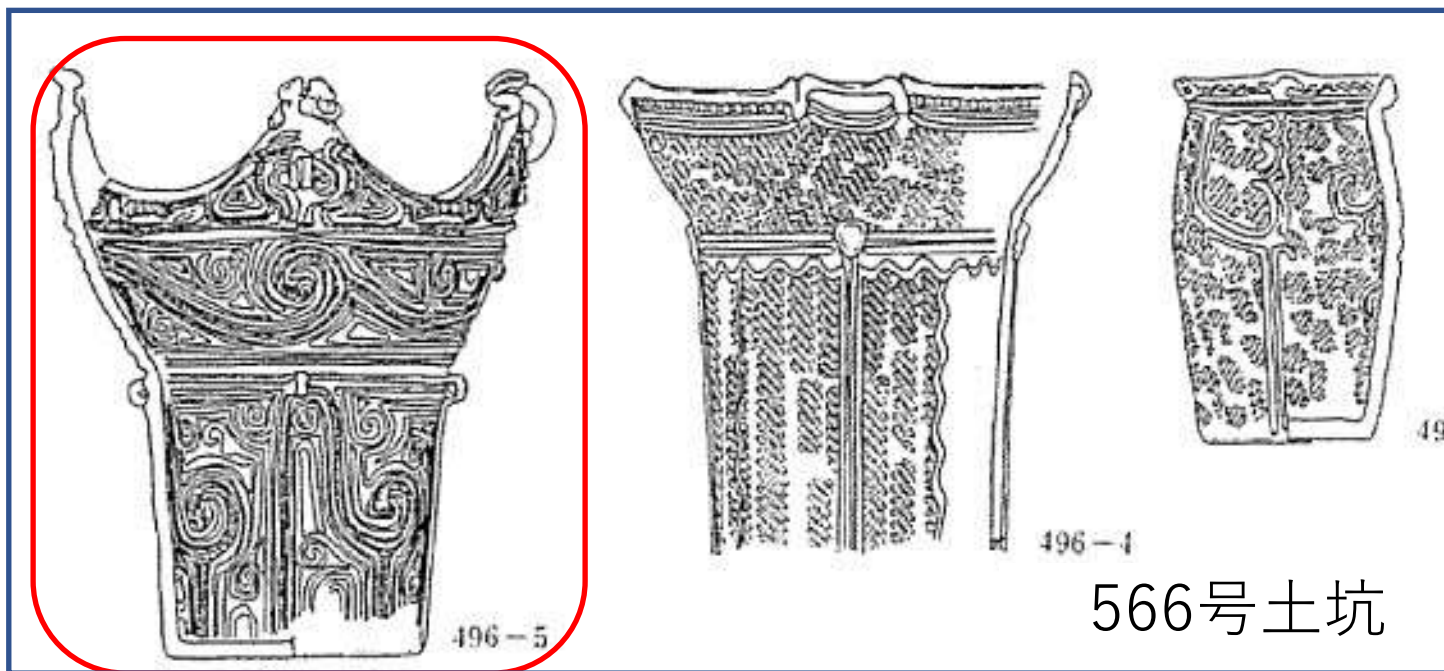


25号土坑



327号土坑

大木7b式期~8a式期 (1)



566号土坑

縄文人の移動と交流 —土器編—

今でも、その時々流行があったり、地域ごとに方言や独自の文化などがあるように、縄文土器にもつくられた時期や地域によって、異なる特徴があらわれます。それらの土器を観察することで、どの時期につくられたのか、どの地域と交流があったのかなど、様々なことを知ることができます。

法正尻遺跡から出土した土器からは、どのようなことが読み取れるのでしょうか。法正尻遺跡は東北地方南部の大木式土器圏に位置します。しかし、遺跡からは、大木式土器（地元）の特徴をもった土器だけでなく、様々な地域の特徴をもった土器も出土します。縄文時代中期の初め頃は、関東地方の特徴を持つ土器も多くみられます。その後は、北陸地方の特徴を持つ土器や北陸地方と東北地方南部（地元）の特徴を併せ持つ土器などが多くみられることから、中期初めとその後では、交流の様子に変化があったのかもしれない。

王冠のような口縁部と刻みがついて
いる縄のような渦巻きが随分だす
圧倒的王者感！



① 北陸地方の特徴をもつ土器
①～③

器面全体が隆線^{りゅうせん}と沈線^{ちんせん}で埋め尽くされるのが特徴です。①と②は、刻みのついた隆線は、富山県や石川県あたりに分布する上山田・天神山式土器の影響かと思われます。

※1 隆々と盛り上がった隆 ※2 粘土の上に磨りつけた線

口縁部につくニワトリの
トサカのような飾りは新潟方面の火焔
型土器と共通していますが、胴部に横目の
文様がつけられているなど、東北タイプさ
れた土器です。



③ 大木式土器圏

地元の土器（大木式土器）

④～⑥

東北地方南部に分布する土器群です。
地文として、縄目の文様が施され、その上に
沈線や隆線で文様を加えられます。



④

大木式土器



⑤



⑥

大木式土器

時期によって特徴が異な
ります。④・⑤がつく
られた約5000年前
（大木8a式期）には、
口縁部に立体的な装飾が
ついたり、渦巻きやクラ
ンク状の文様がついた土
器が多く見られます。

口縁部の
シルエットが
そろばんの玉みたい
だなあ。



関東地方の特徴をもつ土器（阿玉台式土器）

⑦～⑨

阿玉台式土器は粘土の中に金色の雲
母片を混ぜているので、土器の表面を
みるとキラキラしています。法正尻遺
跡から出土した阿玉台式土器の特徴を
もつ土器にもキラキラしているものが
あります。

キラキラ系土器



⑨

阿玉台式土器

縄目やY字の文様が
つくのは東北地方
南部のアレンジで
しょうか？



⑧

製作時の輪積
みの跡を残し
たままデザインにしてい
ます。
その上に、指
を押し付けた
文様をつけて
います。

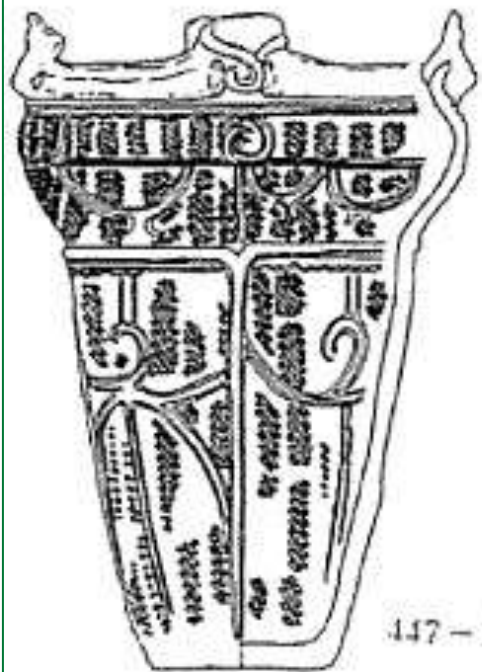
何指で押したの
だろう？
人差し指？親指？

文様で埋め尽くされて
て…ゴージャス♪

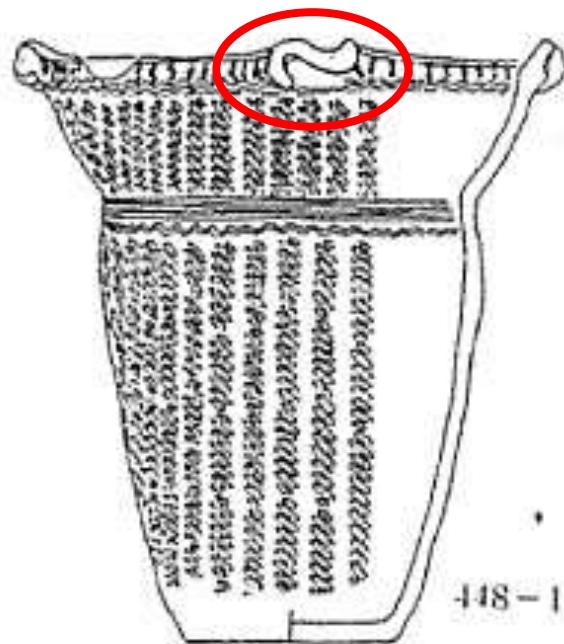
口縁部の宮仲状の区画と
隆帯に沿うように施され
る押し引き文^{おし引きぶん}が特徴の
ひとつです。

※3 工具の押し引きでつける文様

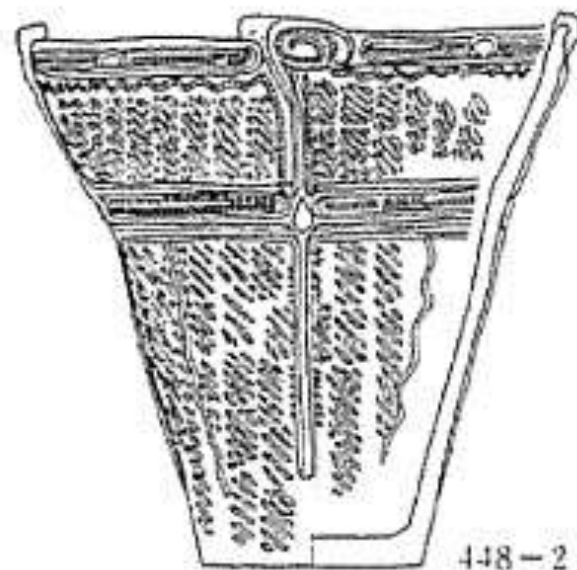
大木式土器



447-1



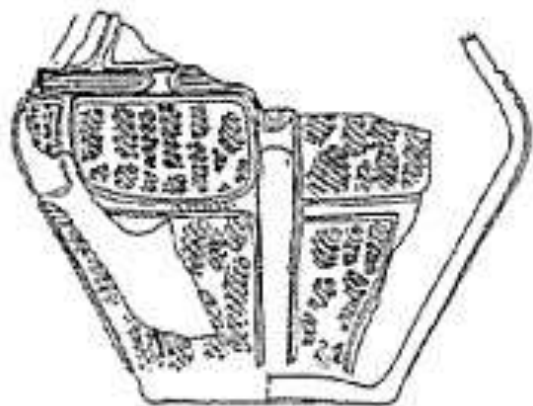
448-1



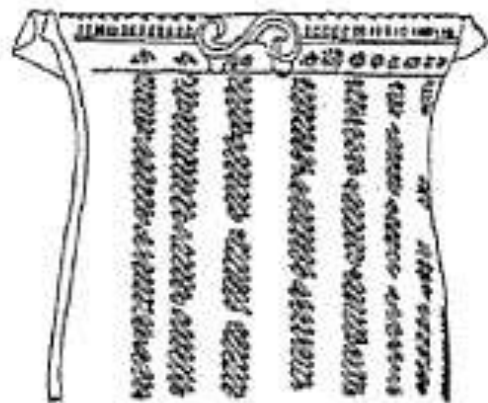
448-2



447-4



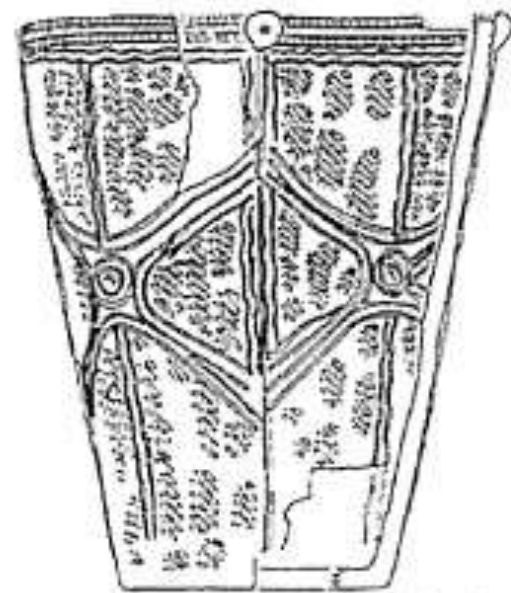
448-4



446-8



447-2

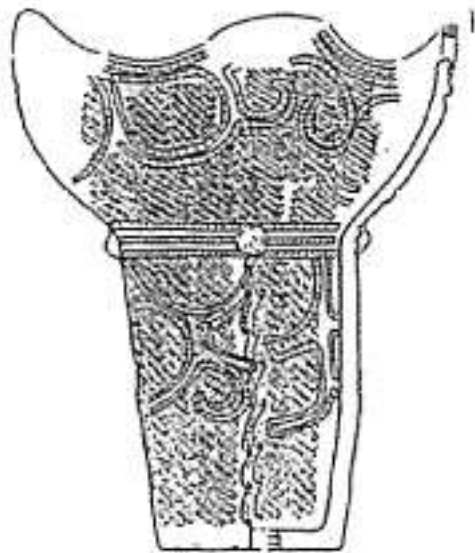


448-3

SK326

326号土坑

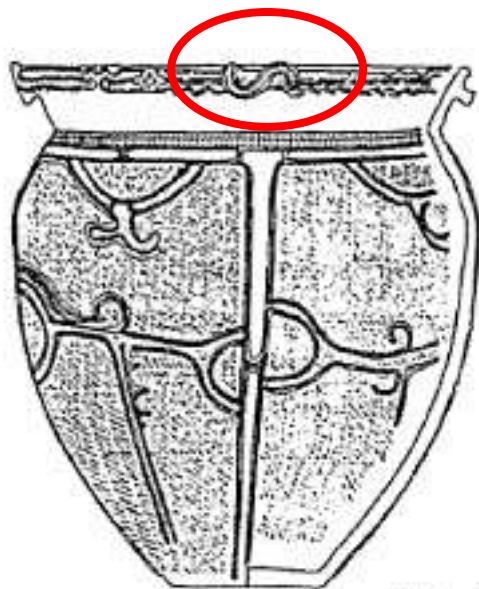
大木7b式期～8a式期 (2)



503-2



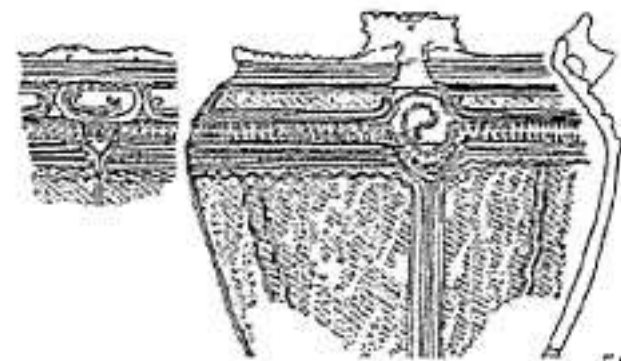
504-2



503-1



503-3



504-3

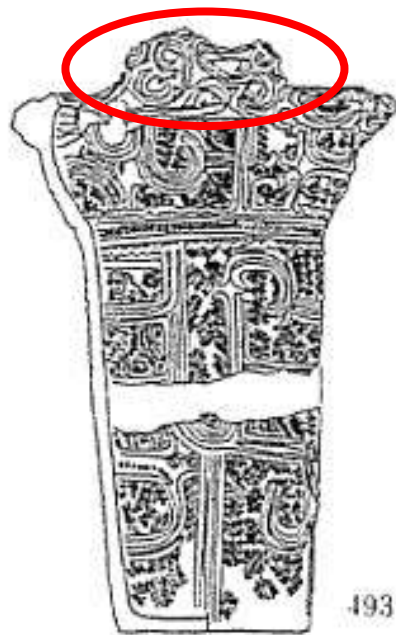
669号土坑

大木7b式期～8a式期 (2)

SK669



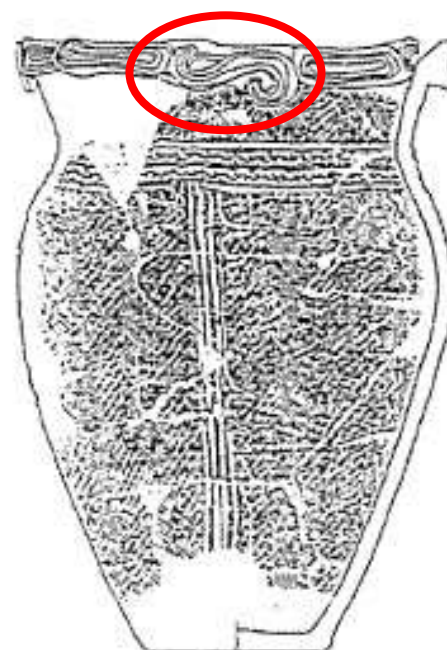
493-2



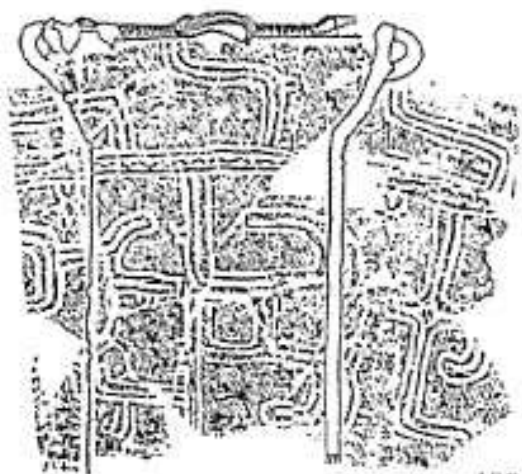
493-1



493-3



492-9



493-4



494-1



492-8

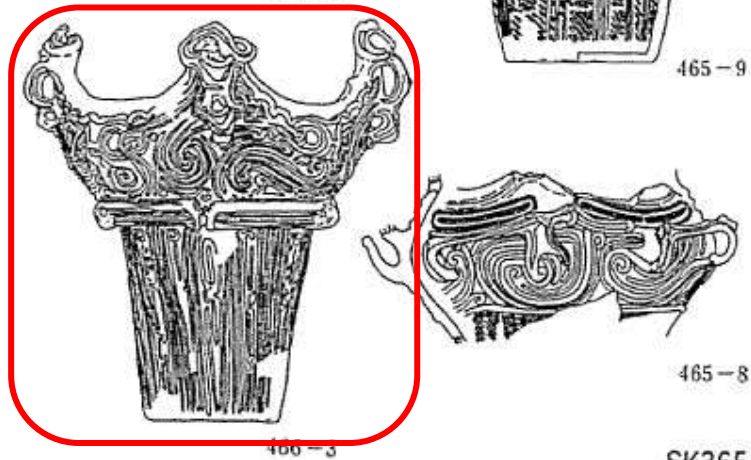
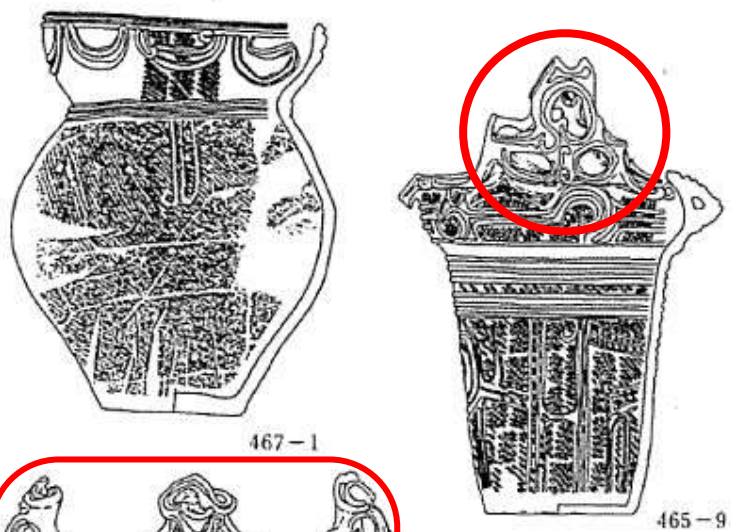
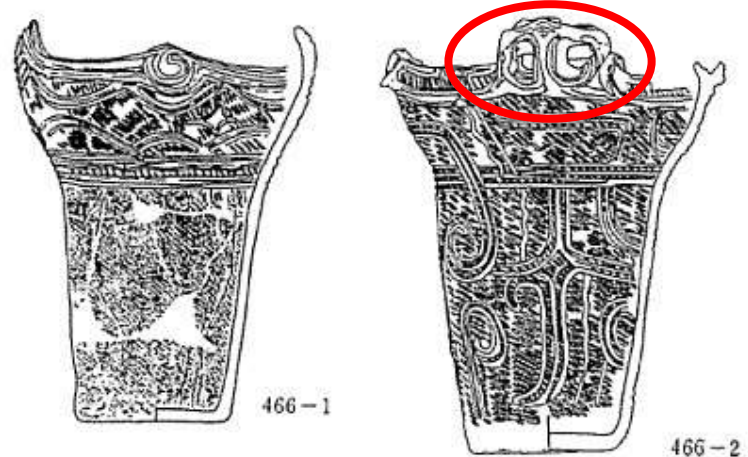


415号土坑出土



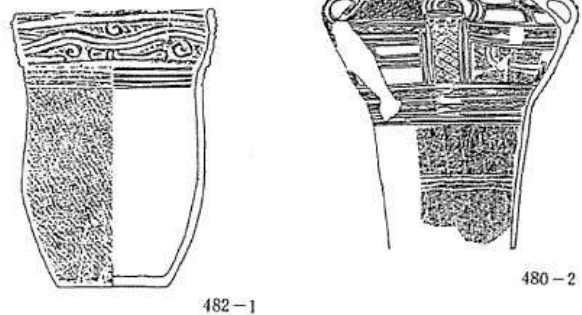
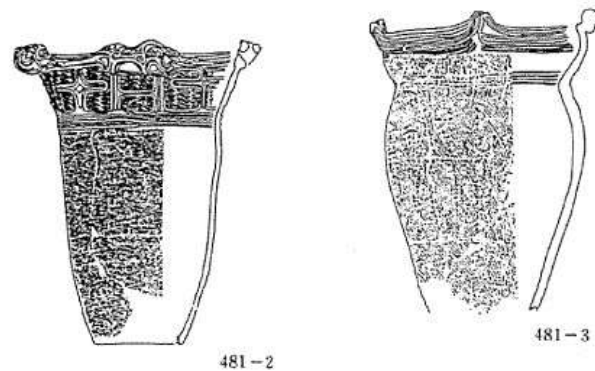
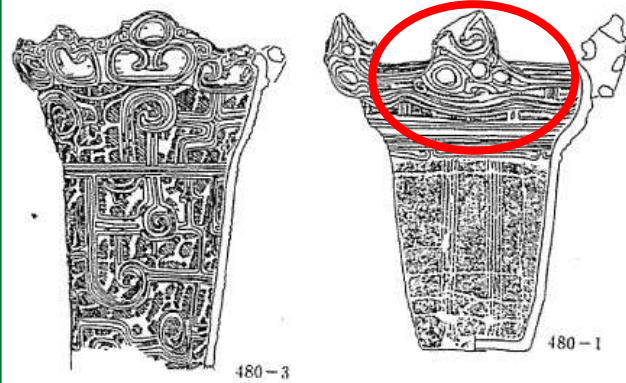
552号土坑

大木8a式期 (1)



SK365

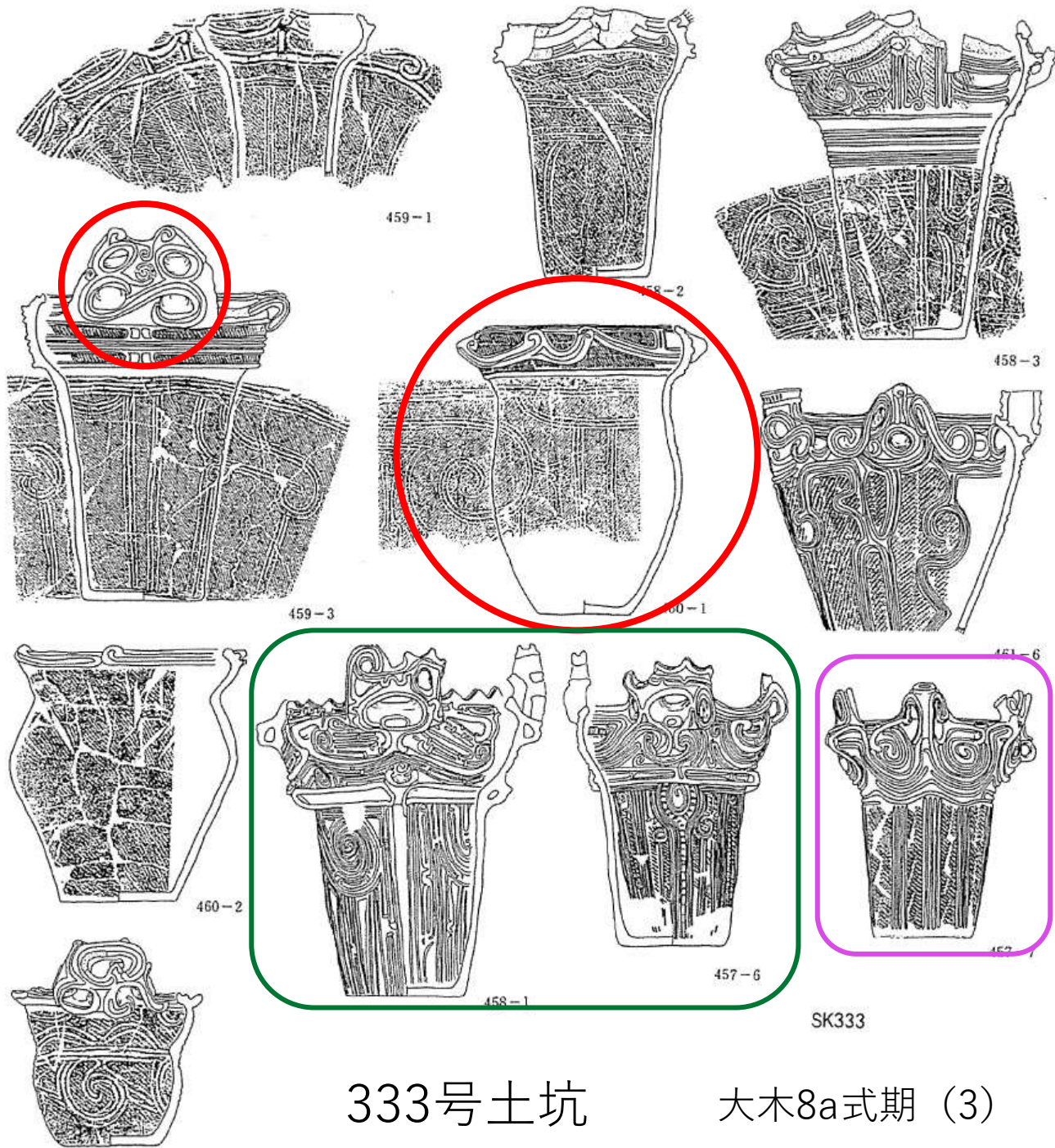
365号土坑



SK492

492号土坑

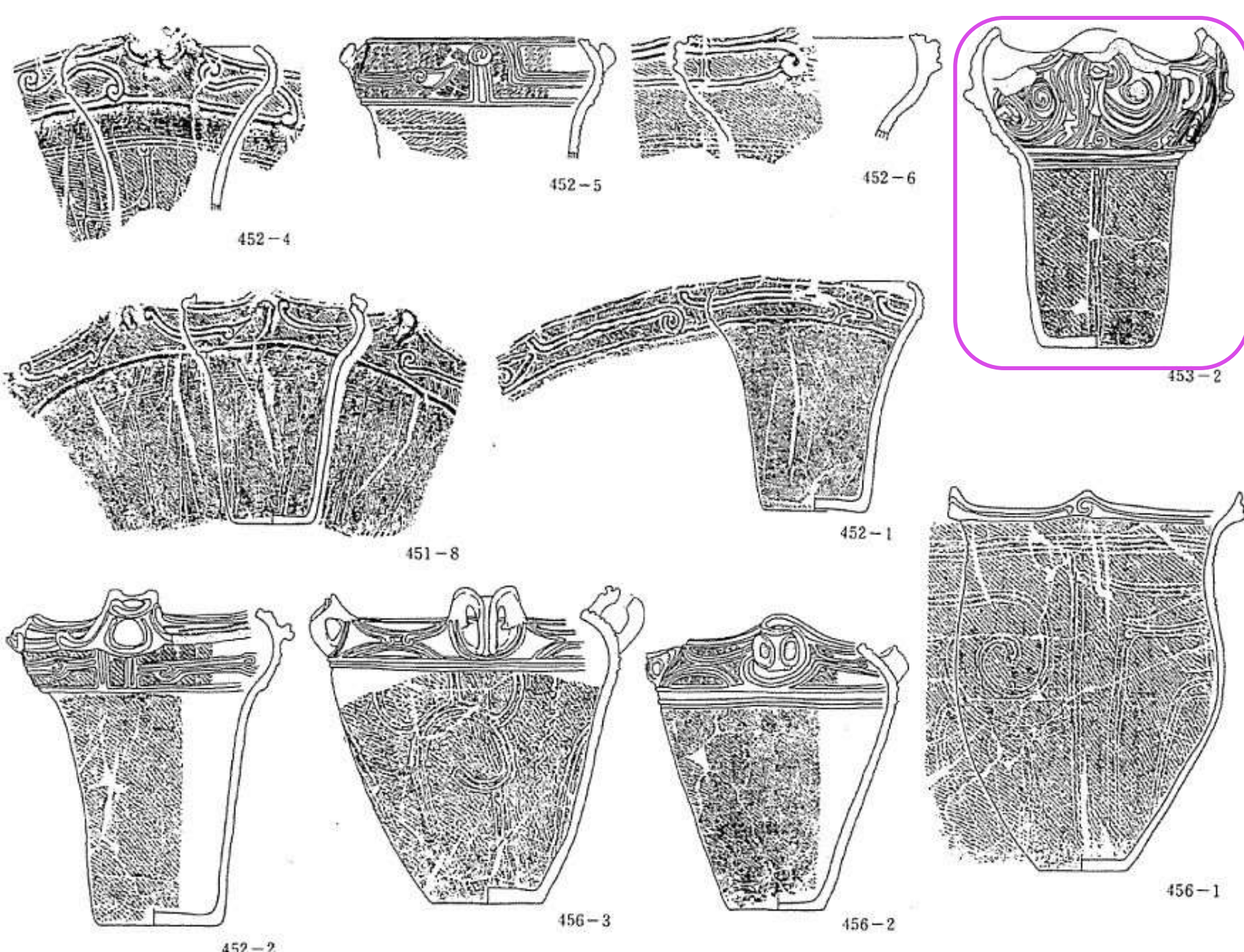
大木8a式期 (2)



333号土坑

大木8a式期 (3)

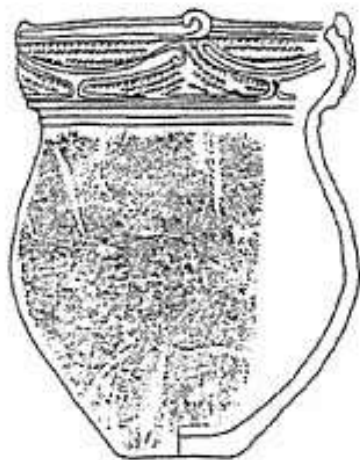
SK333



332号土坑 (1)
大木8b式期



454-1



454-2



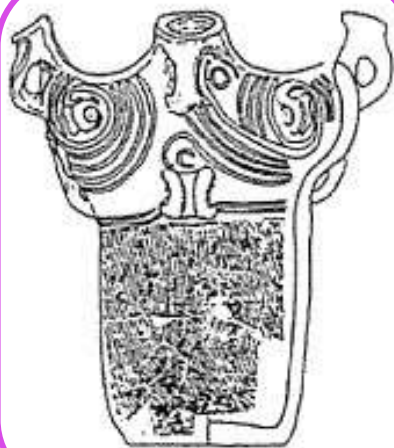
454-3



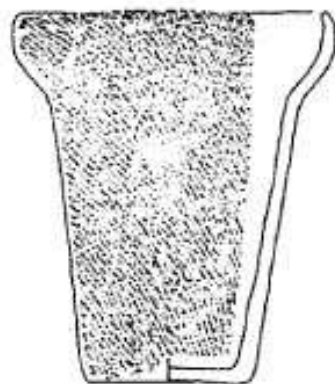
454-4



452-1



452-2



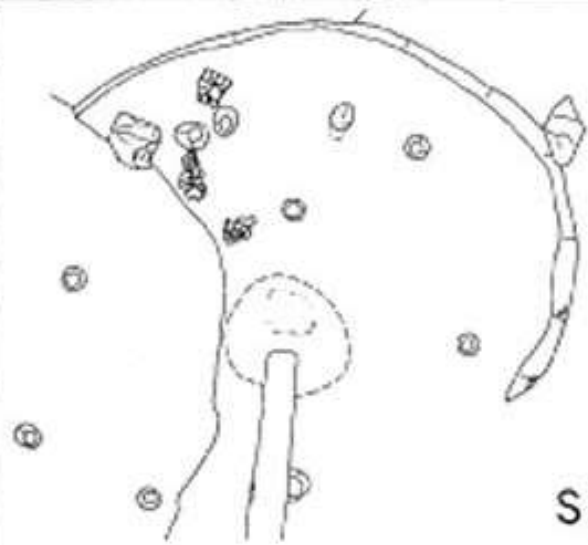
452-3

332号土坑 (2)

大木8b式期

2 住居跡と炉の変遷

大木7^a式期



SI54

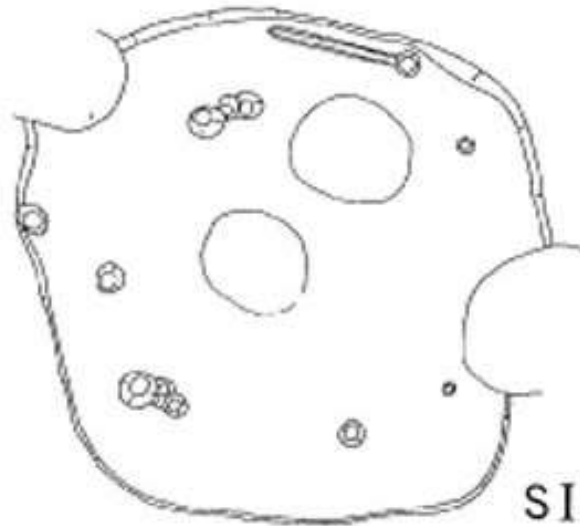


SI 117

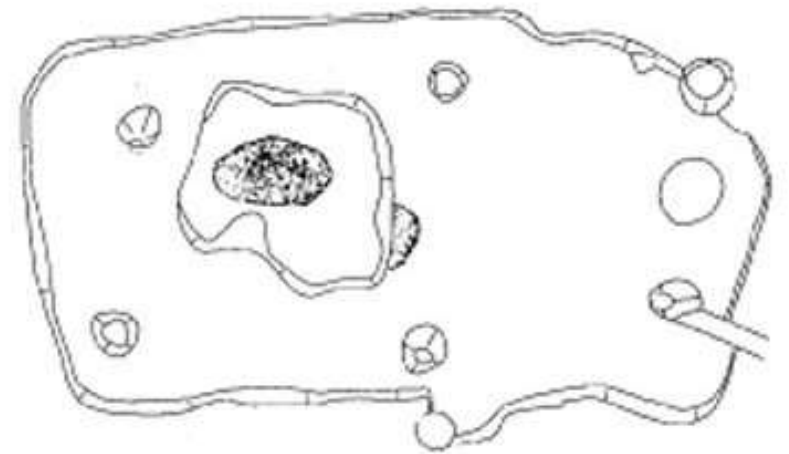
大木7^b式期



SI43



SI101

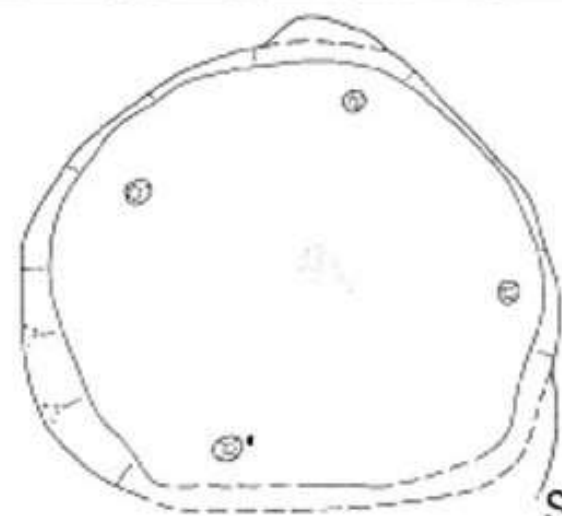


SI21

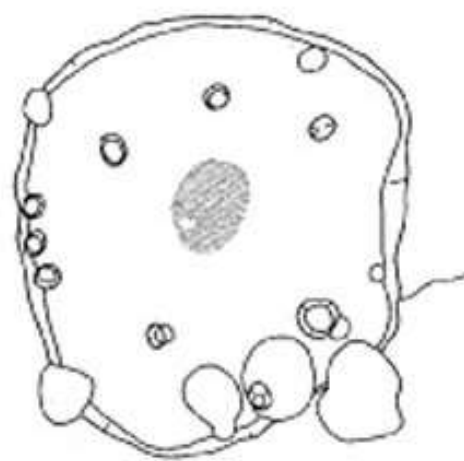


21号住居跡（大木7b式期）

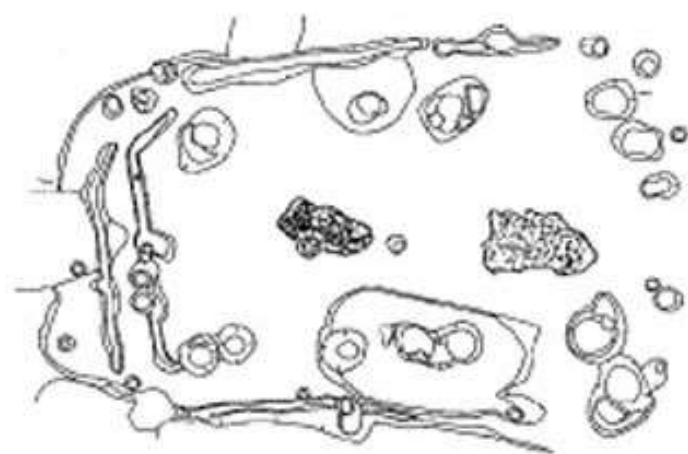
大木 8^a 式期



SI72



SI25



SI9

大木 8^b 式期



SI81



49号住居跡
(大木8a式期)



81号住居跡（大木8b式期）



65号住居跡（大木8b式期）



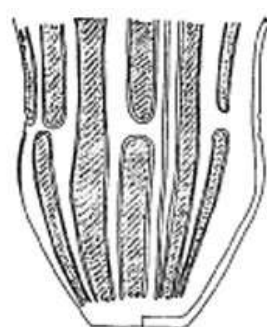
82号住居跡
(大木8b式期)



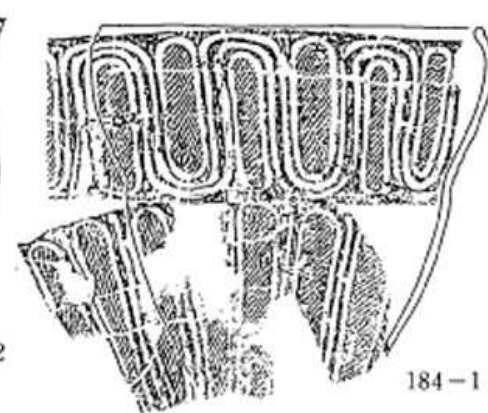
210-1



158-1



158-2



184-1



118-1



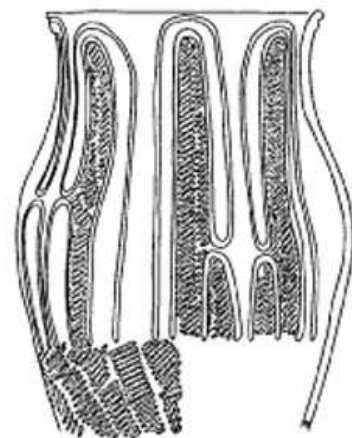
138-1



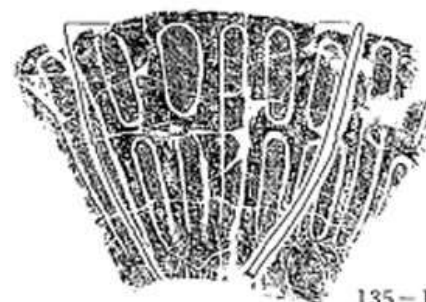
143-1



245-1



184-3



135-1



119-3



246-4



169-1



134-1

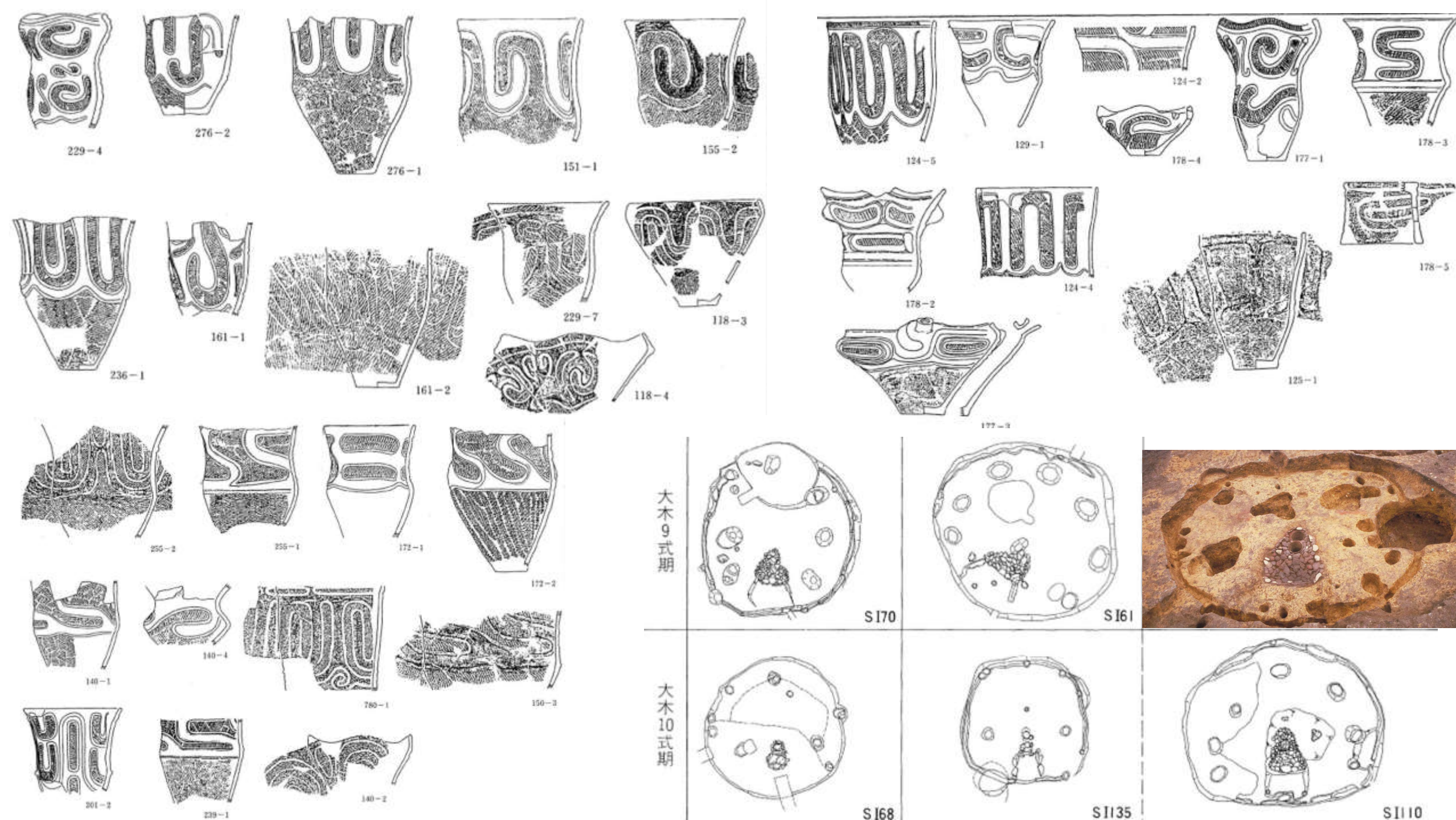


136-1

大木9式期

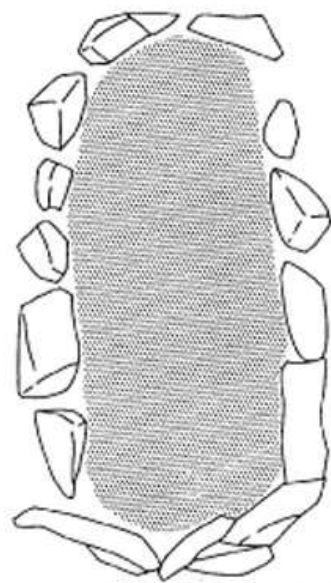


90号住居跡
(大木9式期)



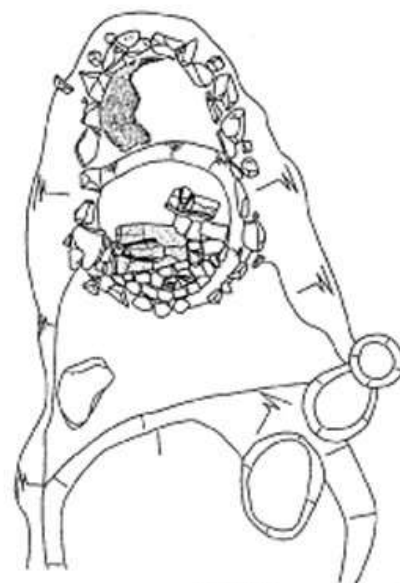


62号住居跡（大木9式期）



2 類

SI65

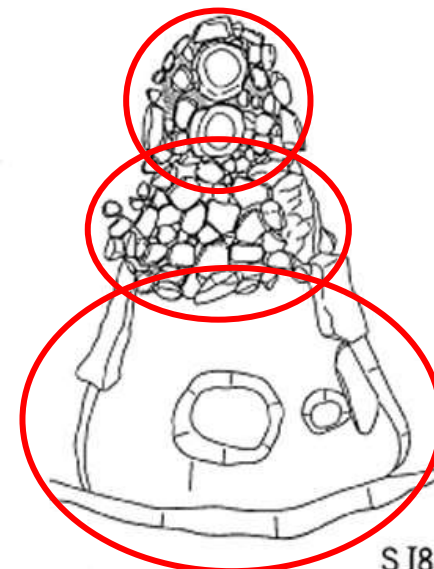


SI90

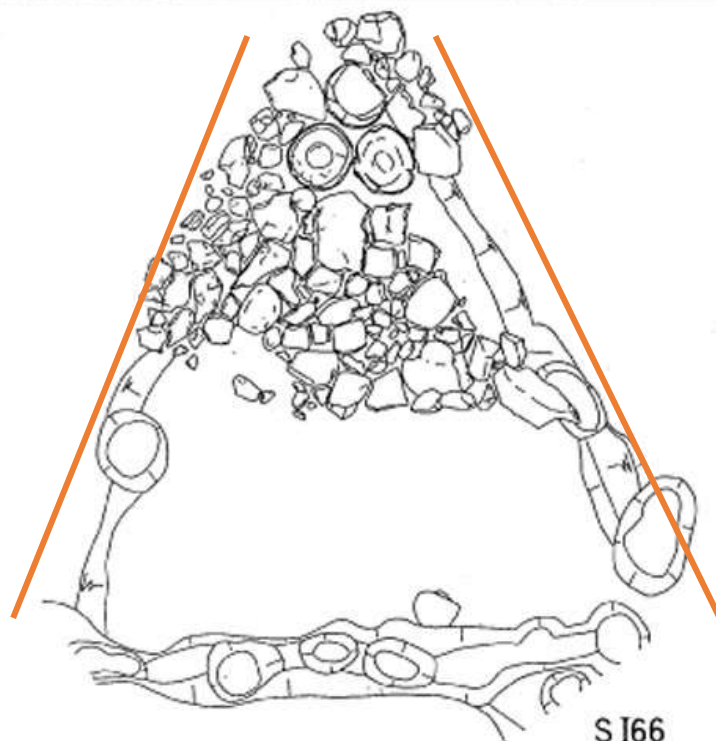
3 類



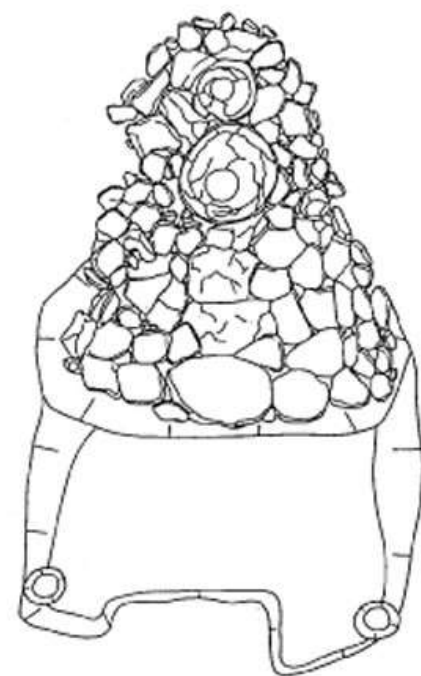
SI92



SI87

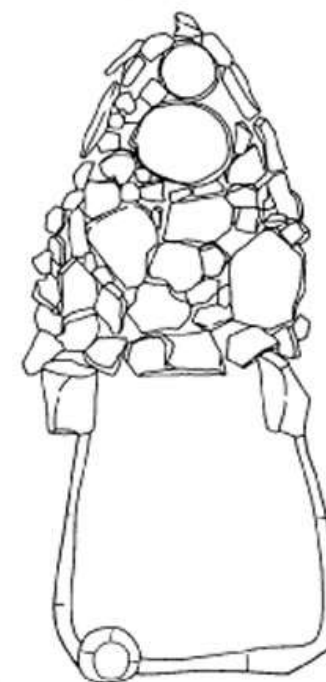


SI66

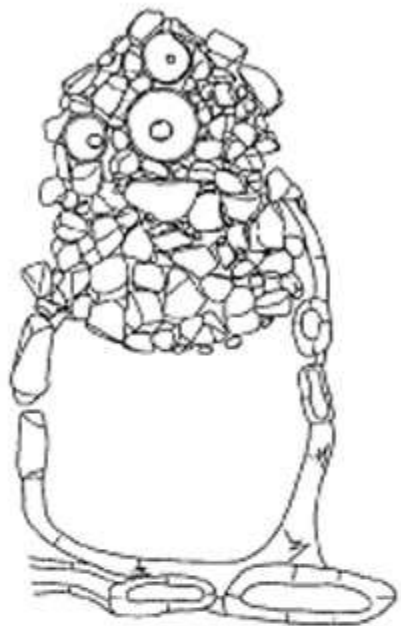


4 類

SI110



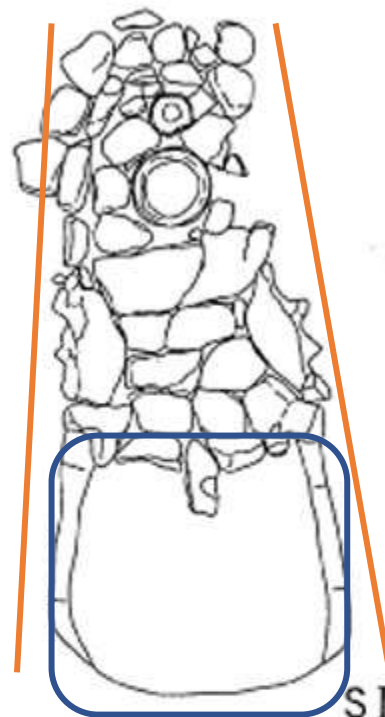
SI78



SI 60



SI 69



5 類

SI 114



SI 80



SI 68



SI 83

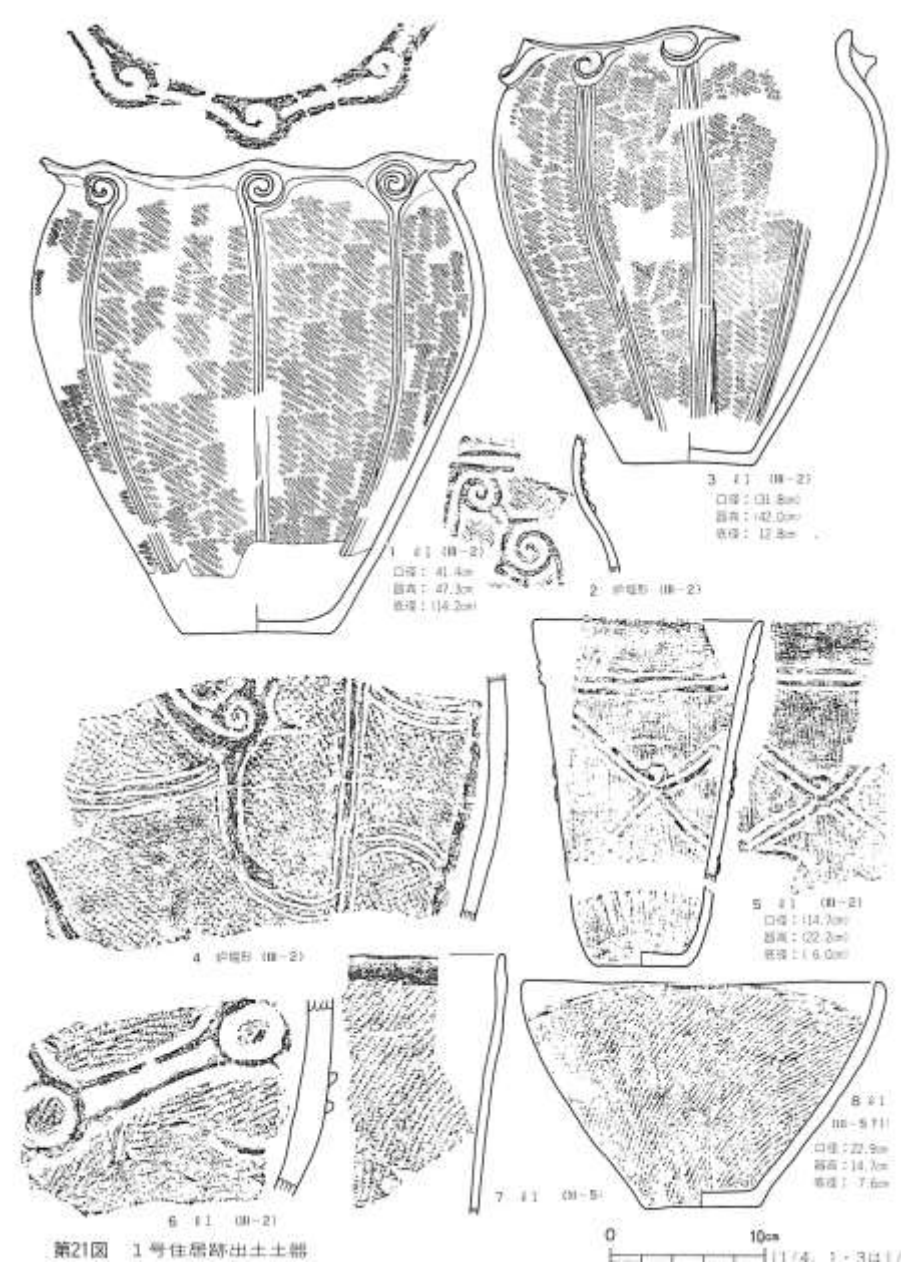


SI 73



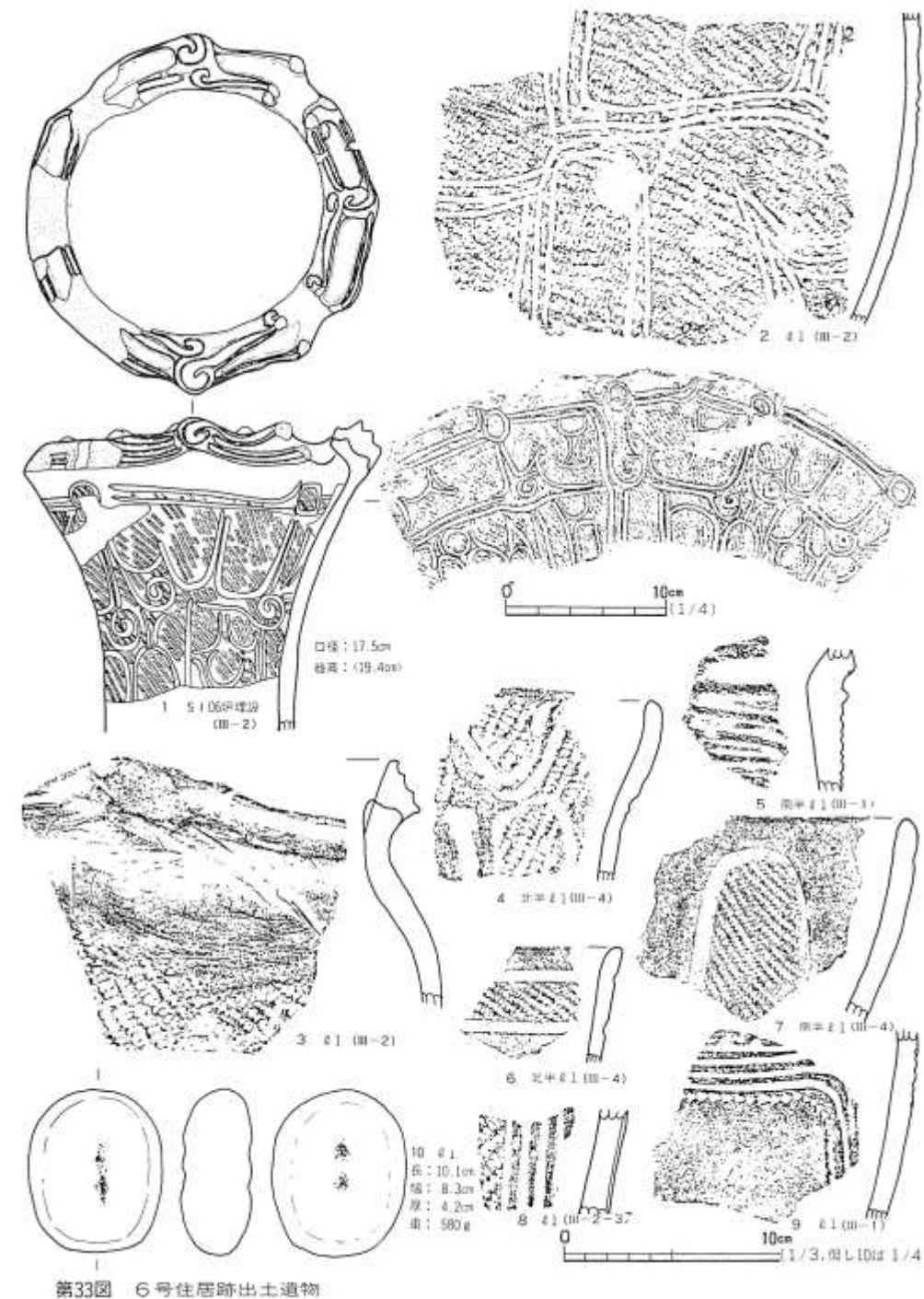
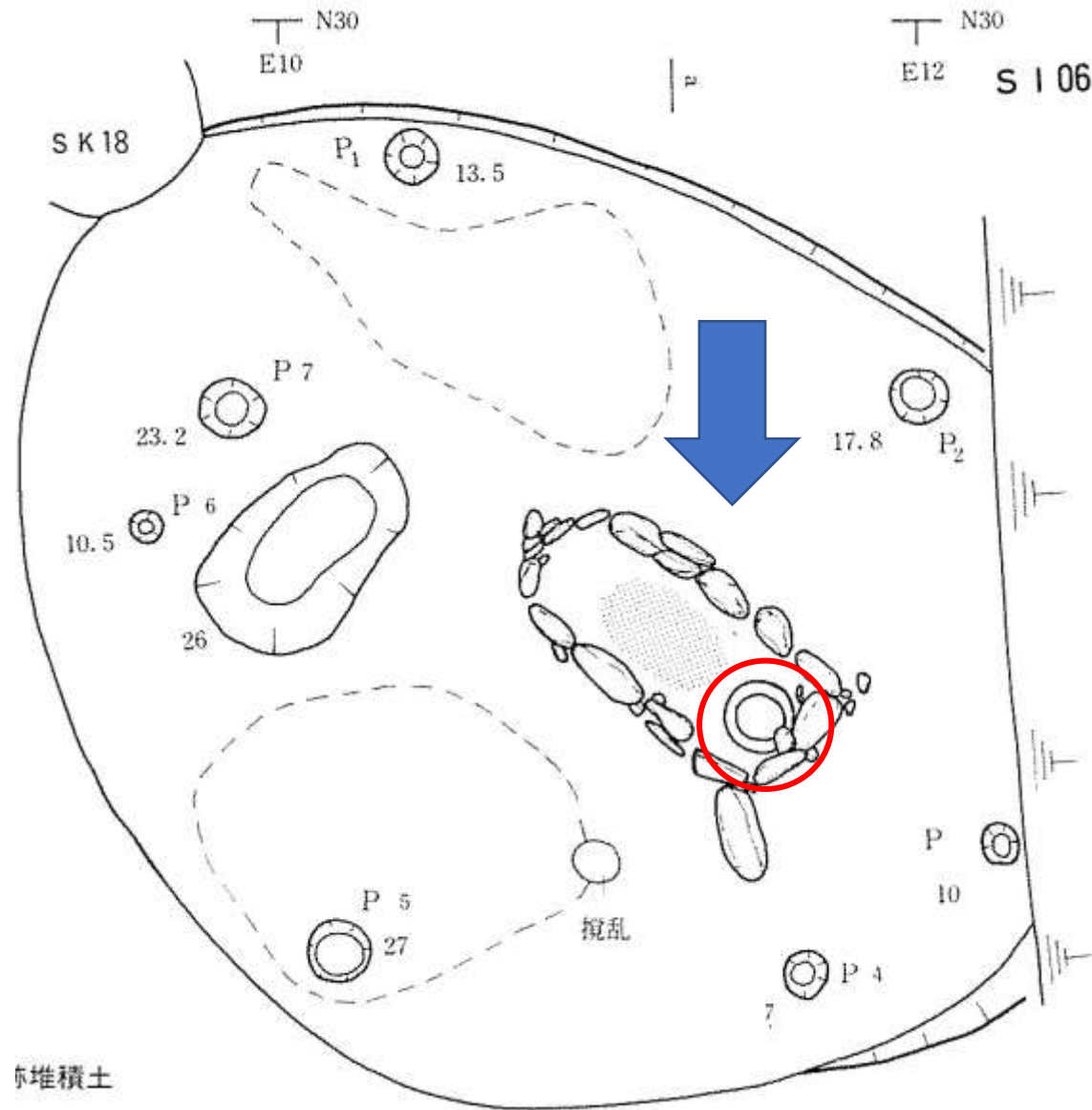
SI 75

6 類



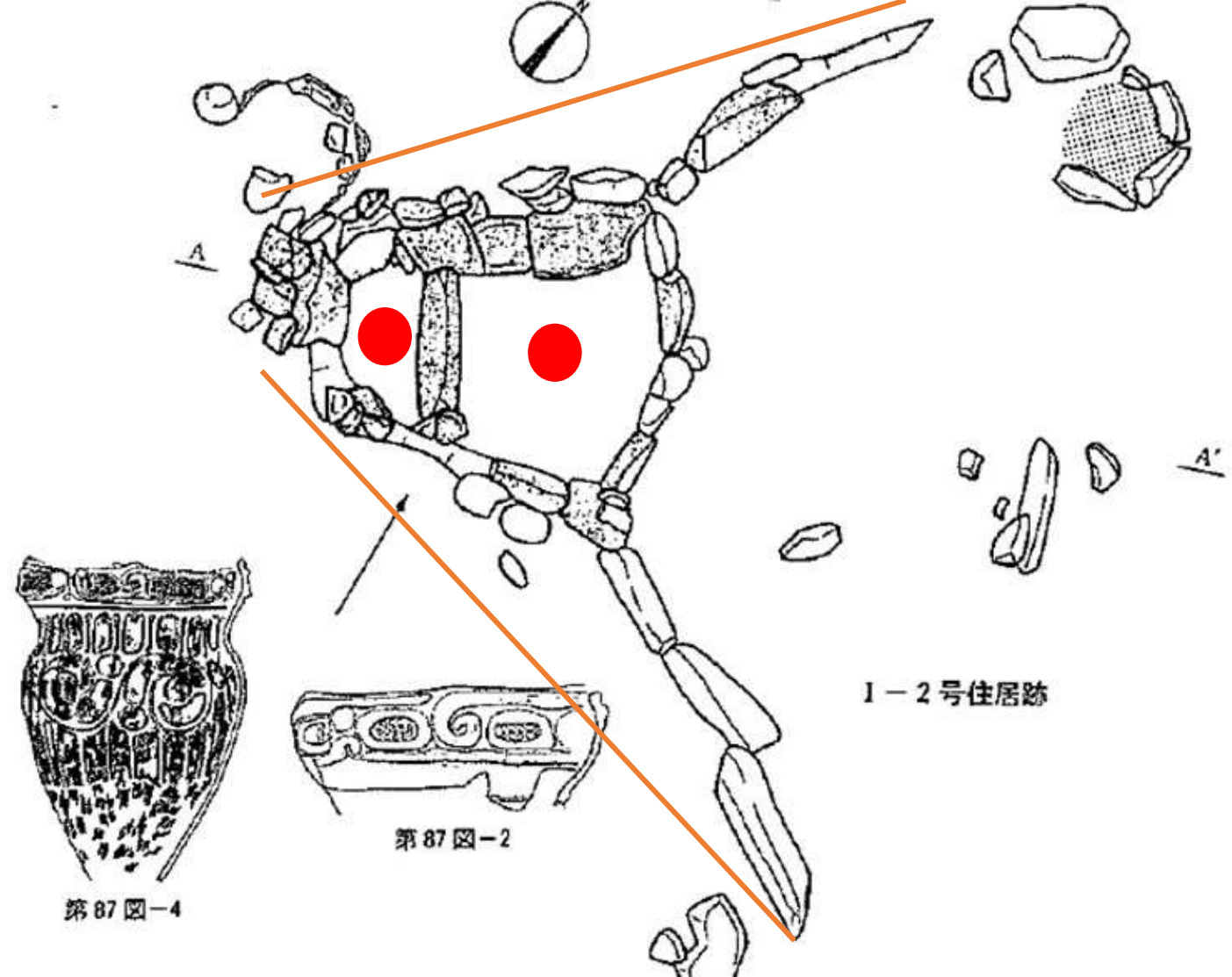
法正尻遺跡に認められない炉形態（1）

磐梯町天光遺跡1号住居跡



法正尻遺跡に認められない炉形態（2）

磐梯町天光遺跡6号住居跡



法正尻遺跡に認められない炉形態（3）

須賀川市塚越遺跡 1 区 2 号住居跡

法正尻遺跡は、大木8b式期終末から大木9式期初頭において一時的に断絶した可能性あり

3 居住空間と貯蔵空間のあり方

(1) 概要

縄文中期前半の土坑群と中期後半の竪穴住居跡群

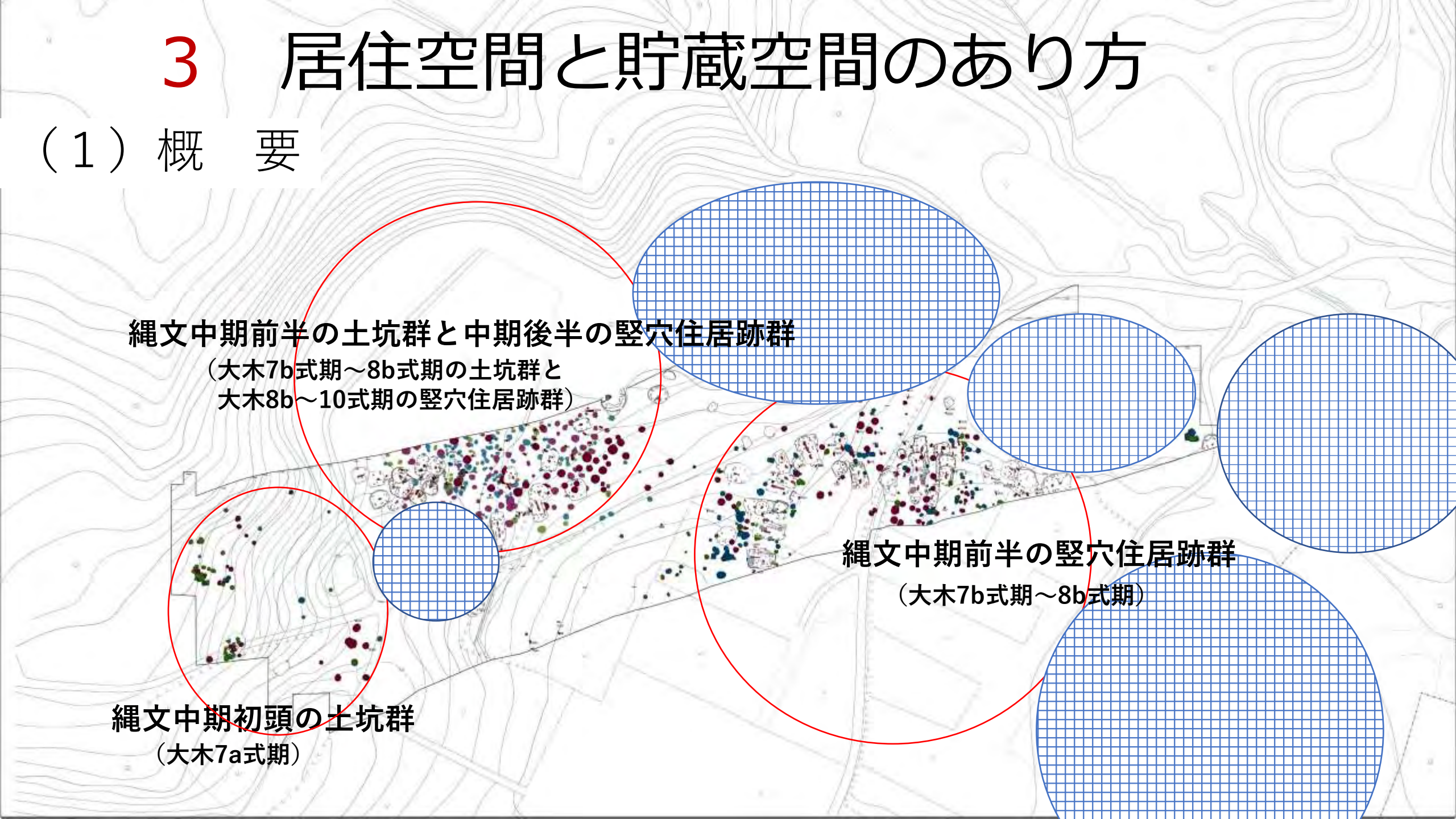
(大木7b式期～8b式期の土坑群と
大木8b～10式期の竪穴住居跡群)

縄文中期初頭の土坑群

(大木7a式期)

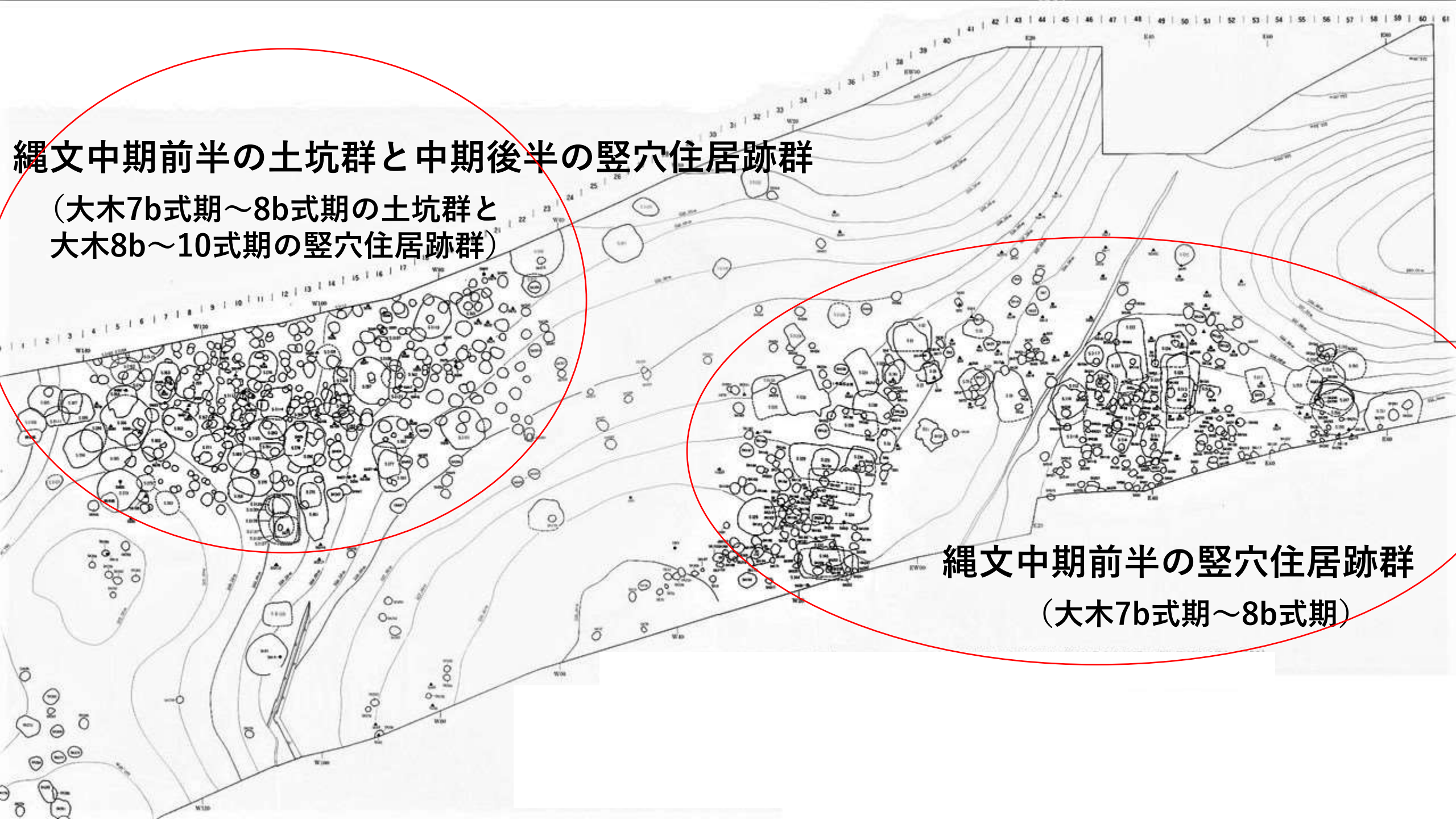
縄文中期前半の竪穴住居跡群

(大木7b式期～8b式期)



縄文中期前半の土坑群と中期後半の竪穴住居跡群

(大木7b式期～8b式期の土坑群と
大木8b～10式期の竪穴住居跡群)

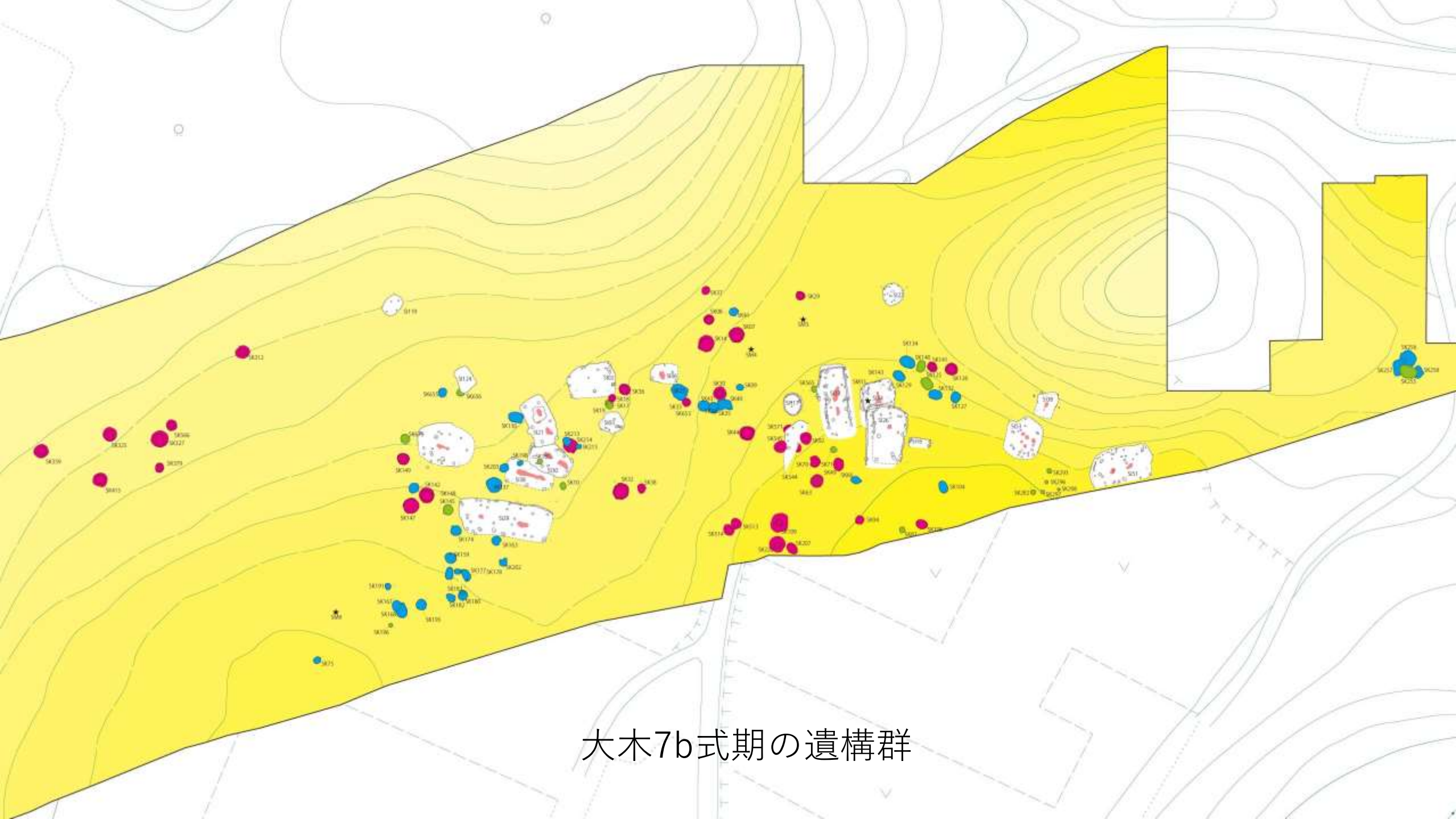


縄文中期前半の竪穴住居跡群

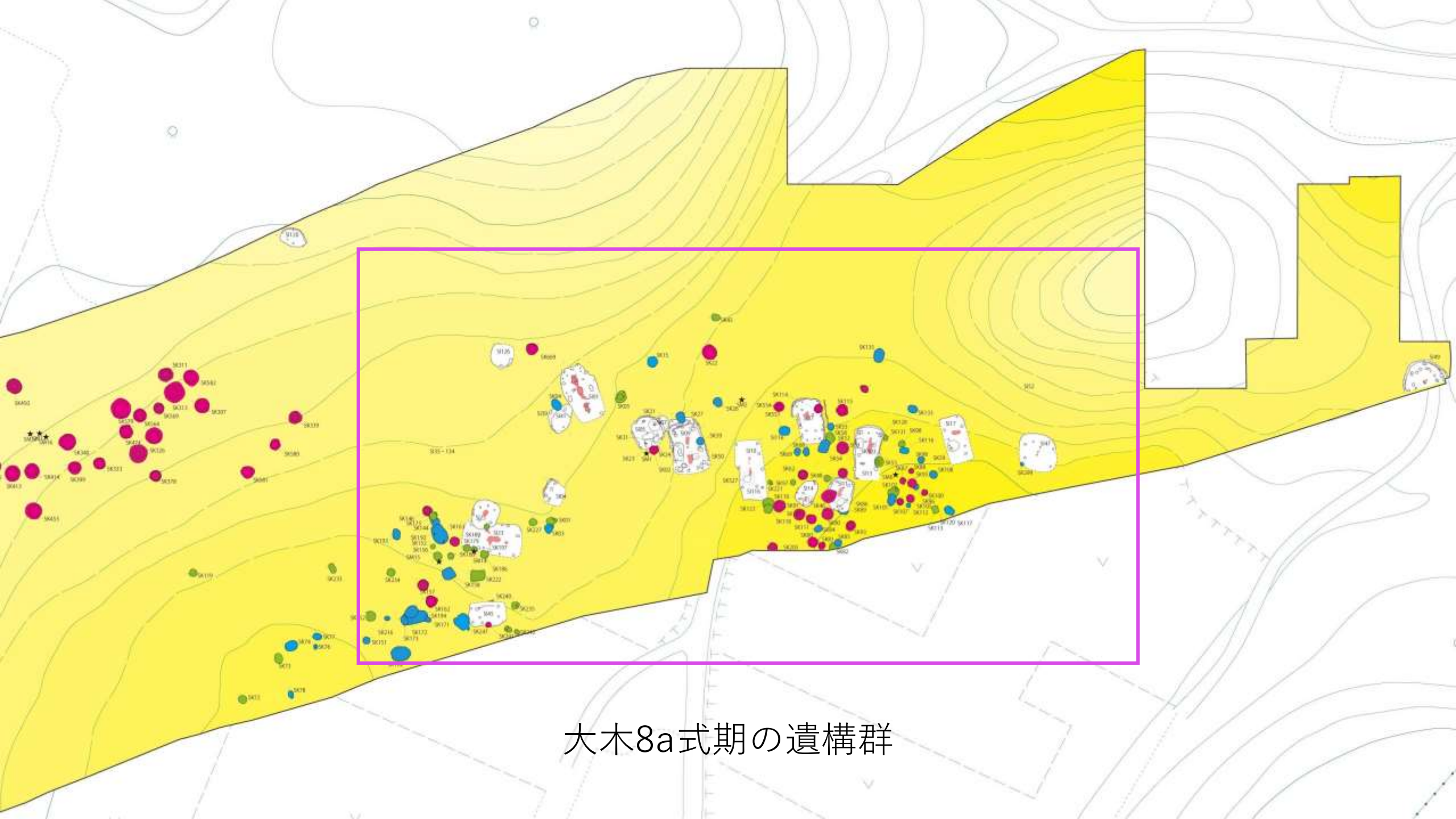
(大木7b式期～8b式期)



貯蔵穴と複式炉の重複状況



大木7b式期の遺構群



大木8a式期の遺構群

(2) 竪穴住居の占地と継続性



大木7a式期 (1)



大木7a式期（2）



大木7a~7b式期



大木7b式期（1）



大木7b式期（2）



大木7b~8a式期



大木8a式期（1）



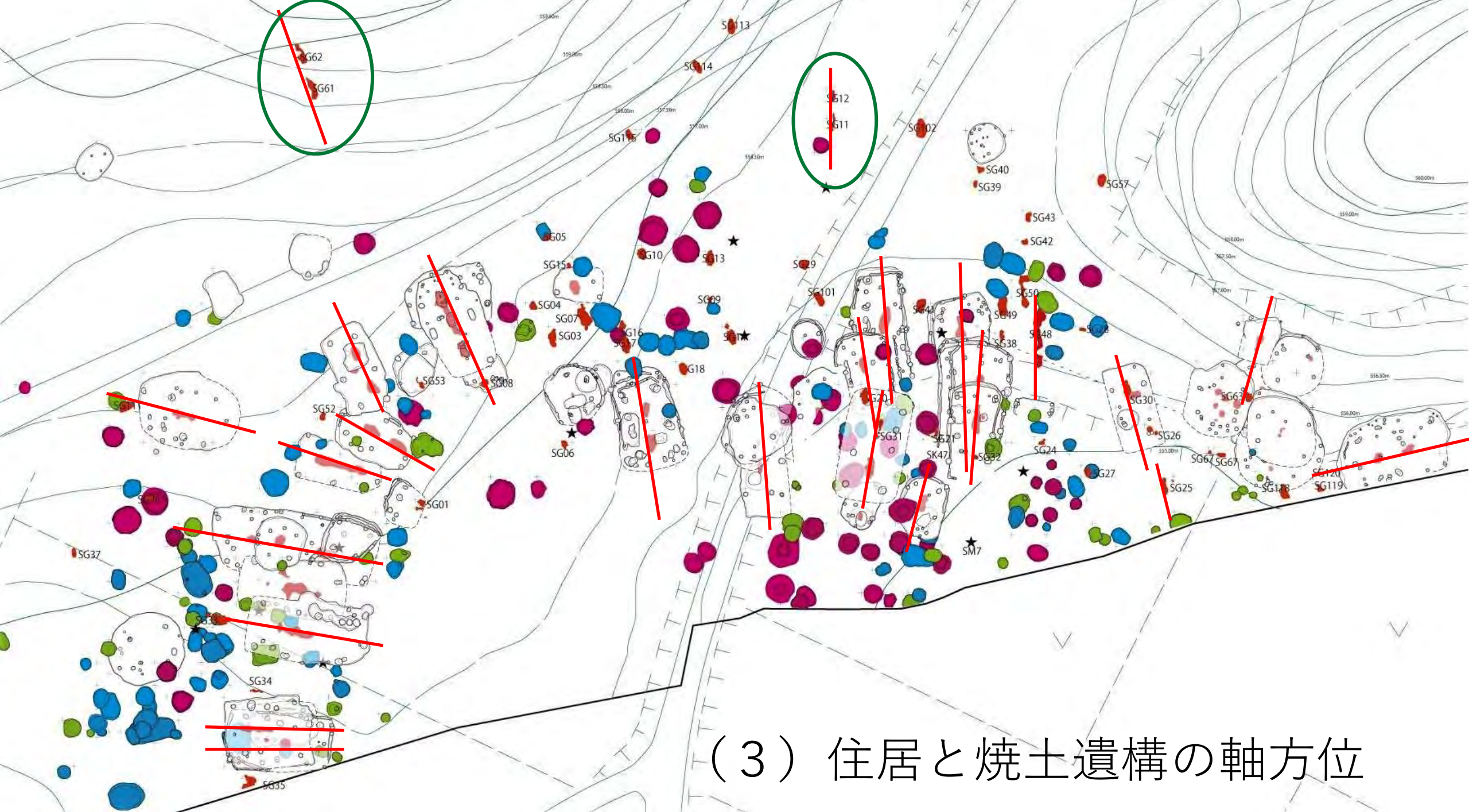
大木8a式期（2）



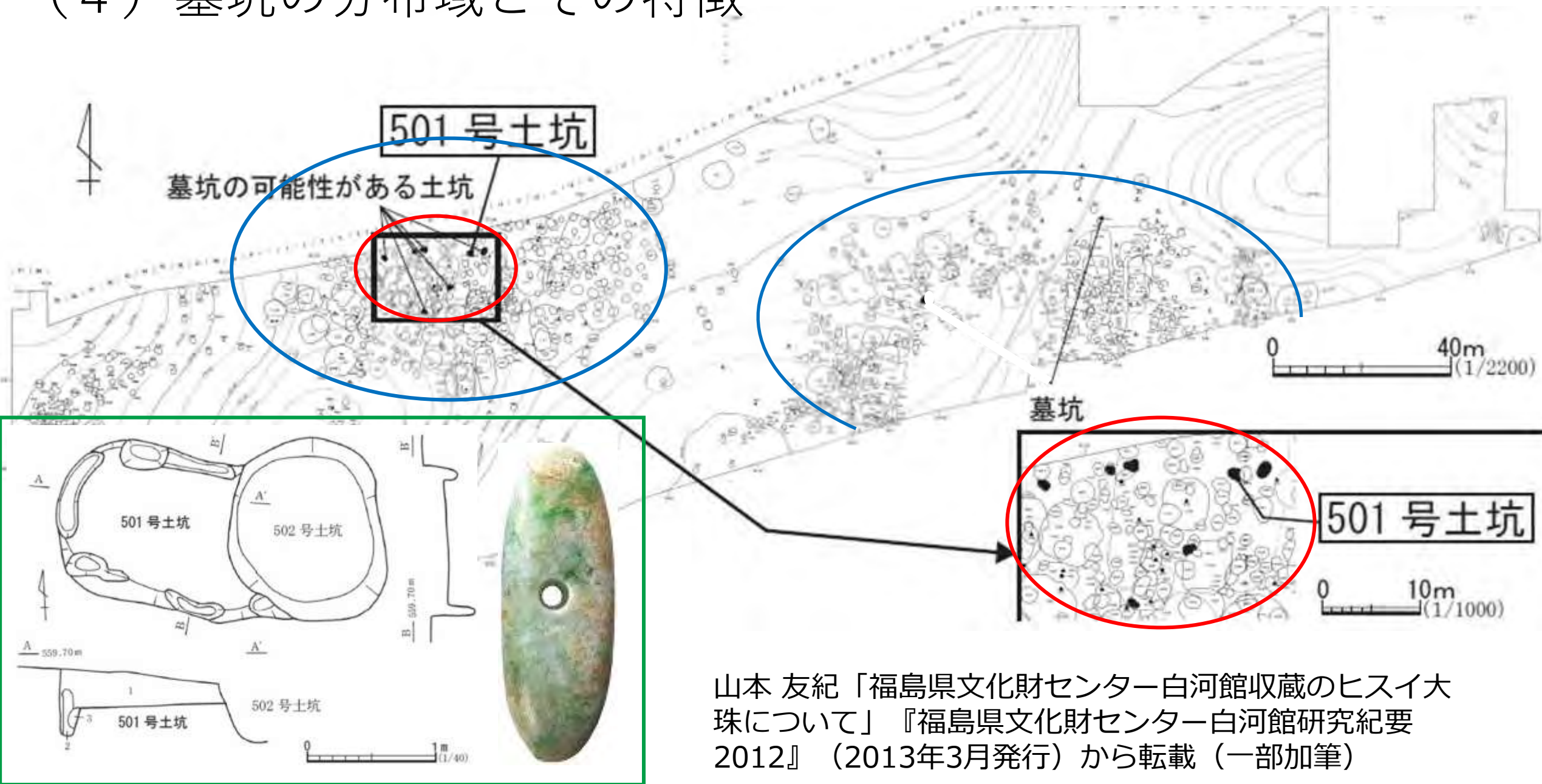
大木8b式期



竪穴住居が同一地点で同じ向きに建て替えられるのはなぜか？ 建て替え中の仮住まいはどこかにあるのか？
(SI 13・26・31・34の重複：大木7b式期→大木8a式期)



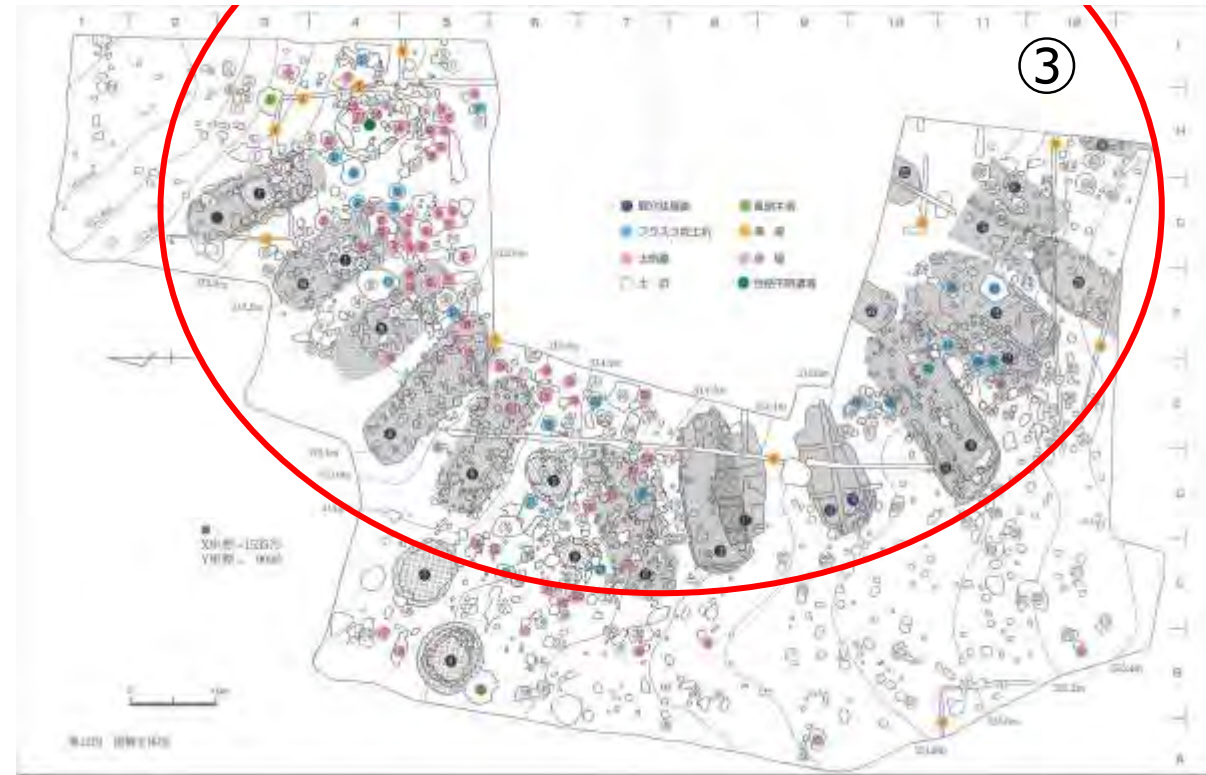
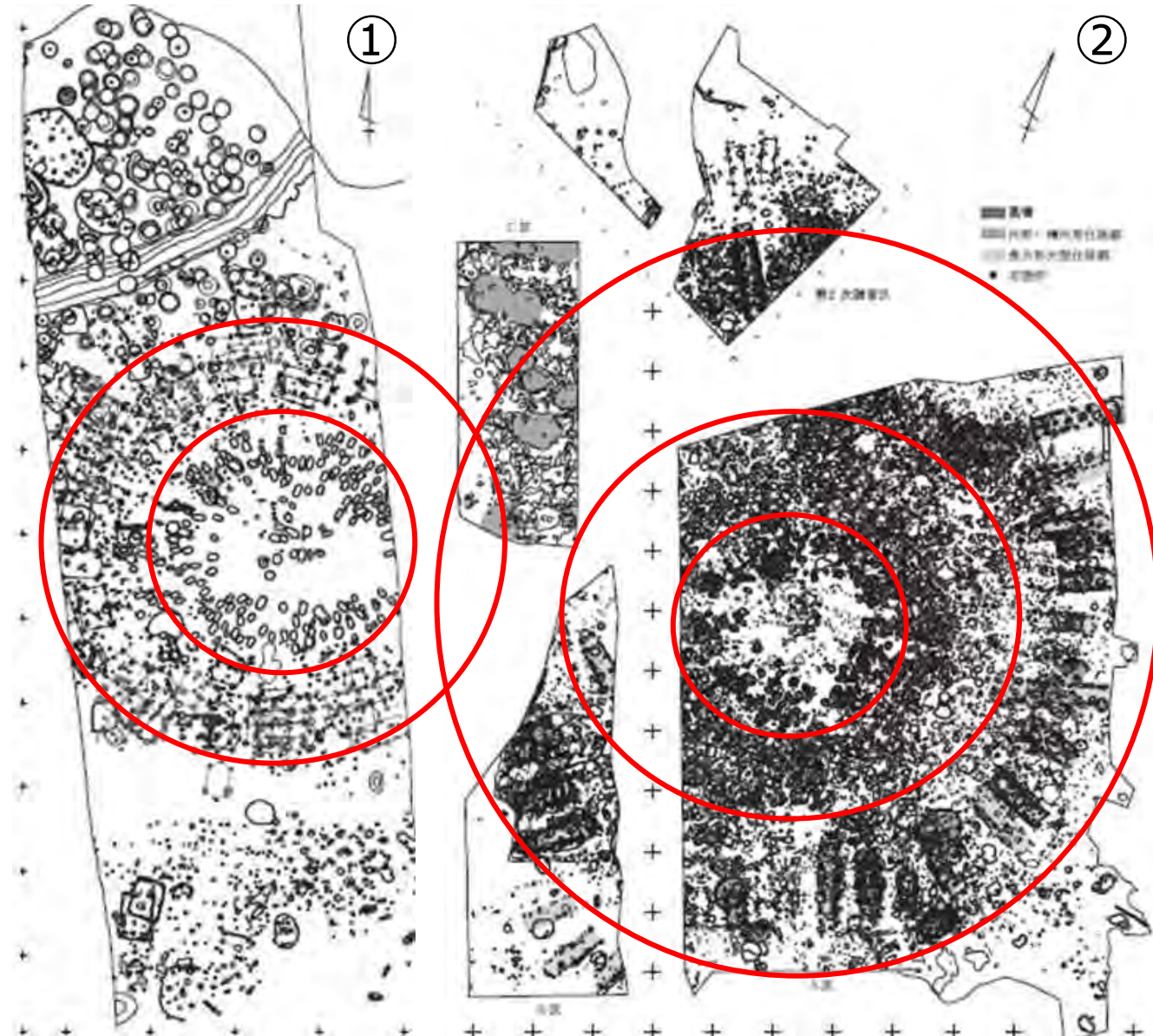
(4) 墓坑の分布域とその特徴



山本 友紀「福島県文化財センター白河館収蔵のヒスイ大珠について」『福島県文化財センター白河館研究紀要 2012』（2013年3月発行）から転載（一部加筆）

(5) 居住空間と貯蔵空間

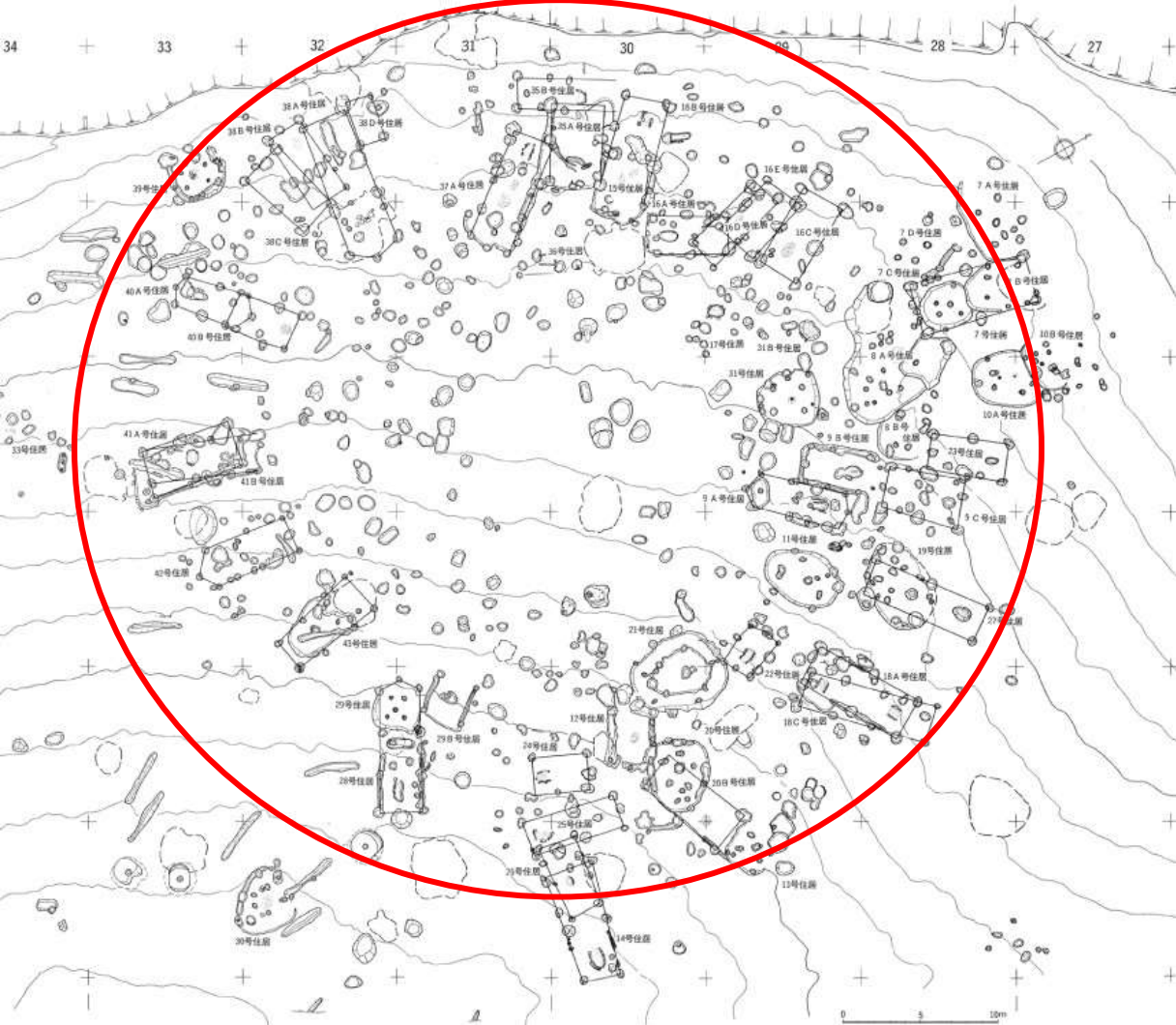
—西田・西海淵・本能原・法正尻・五丁歩・清水上、そして妙音寺・堂後—



- ① 岩手県紫波町西田遺跡
- ② 山形県村山市西海淵遺跡
- ③ 会津若松市本能原遺跡

【挿図出典】

- ①・② 小林圭一 2019「西海淵遺跡と西田遺跡の墓壇群について」
『研究紀要11』(公財)山形県埋蔵文化財センター
- ③ 会津若松市教育委員会 2000『本能原遺跡』



新潟県南魚沼市五丁歩遺跡

【挿図出典】新潟県教育委員会 1992『関越自動車道関係発掘調査報告書 五丁歩遺跡 十二木遺跡』



新潟県魚沼市清水上遺跡

【挿図出典】新潟県教育委員会 1996『関越自動車道堀之内インターチェンジ関連発掘調査報告書 清水上遺跡Ⅱ』

法正屍遺跡が意味するもの

● 複数の土器個体がまとまって出土した貯蔵穴

SI 119

結界か

- 貯蔵穴群エリアの独立 保存食料共同管理区域か
- 貯蔵穴群エリアと墓壙群の重複 日常的起居空間との間に結界が存在する可能性
- 墓壙群の被葬者は保存食料を管理する指導者か
- 郡山市妙音寺遺跡・堂後遺跡の貯蔵穴群も同様か